崩れる

作　広田淳一

執筆期間:2017.08.19-

【登場人物】

猪俣…　会社員。ロードバイクが趣味。

針谷（はりや）…　猪俣の同僚にして大学時代からの友人。

金沢…　猪俣・針谷の大学時代からの友人。会社員。

江田…　猪俣・針谷の大学時代からの友人。年上。会社員。

園田…　旅館の主。

松本…　旅館の従業員。

斉藤…　旅館の従業員。

宇多川（うたがわ）…　旅館に出入りのある米屋。

河井…　元旅館の従業員にして、針谷と猪俣の後輩。

【前提】

◎前提／装置

◎前提

日本。郊外。人と森の間のような場所。
この郊外は「疎外」されたものの行きつく場所だ。疎外している側の誰か、が予感される。

◎装置

旅館。

◎表記について

・　――間を取らない読点。
★　――前の台詞の語尾に重ねて言う。いわゆる食い気味。
／　――間髪入れずに台詞の調子・方向性を切り替える。
＝　――語尾に「＝」が付き、続く行の語頭に「＝」が付く場合、間髪入れずに次の台詞が始まる。行をまたいで語頭に「＝」が付く場合、それらは一人の人物の連続した発話である。
［　――近くにある同数のこの記号と同時のタイミングで始まり、重なったまま発話される。
▲　――そでにはけながら言う。
▽　――言いながら登場する。
☆　――同じ数字の☆印を、同時に言う。

ト書きの「間」と「一拍」は、「一拍」の方が短い。
（このような）括弧内の文字は発話されない。
このような傍点付きの台詞は強調の意味。強調して発話するとは限らない。

【1】　夕暮れ

オープニング

開場。

▼音響　客入れ音楽。

客入れ挨拶。

▼音響　M0　crossでinする。

その流れの中で開演。

暗転。

▽音響　M0　fade out

到着前

◎クモの巣　1

とある山中。陸の孤島のような場所。

山間に川が流れていて、その近くにひとつの宿がある。宿の名前は「クモの巣」という。

宿は二階建てで、古民家をリフォームしたこじんまりとした造り。風は涼しく、日当たりも良い。宿全体は懐かしさを漂わせながらも洗練された雰囲気になっている。

宿の一階。

二人の従業員（斉藤と松本）がいる。

斉藤は舞台前方の空を見上げており、松本はその斉藤をじっと見ている。

松本　――どうっすか？

斉藤　まだ降ってはないけど、大分風が出てきたっていうか。

松本　ああ――。ええ？　そんじゃまた雨漏りっすかね？

斉藤　――多分な。

斉藤、屋内のどこかに腰をおろす。彼のパソコンがそこにある。

松本　そろそろ直した方がいいんですけどね。業者入れて。

斉藤　やあ、金ねえだろそんな。

松本　でも、絶対その方が早いですって、毎度毎度あんな思いして――、

斉藤　――今更業者入れてもなあ。

松本　そうっすけどォ。

斉藤　――スパッと諦めた方が良い時もあんだよ。さっきのホラ、元カノの話じゃねえけどさ、
松本　ああ、や、あ、それですよそれ。また（斎藤さんが）話逸らして、
斉藤　だけどさ、――諦めた方がいいよ、実際。
松本　いやでも、
斉藤　すっきりしないのはわかるけどさ、
松本　そりゃまあ、確かに法律上の罪ではないのかもしんないですよ？　向こうがやったことは。法律上の罪ではない・というか、むしろ法律でいったら俺のが悪くなんのかもしんないですし／や・わかってるんすよ十分、そこんとこの理屈は＝
斉藤　ああ。
松本　＝でも、なんていうか、人としてっていうか、そういう、人間としてやっちゃいけないことってあるじゃないですか？＝
斉藤　んー。
松本　＝しかもそんな、――まあ、自分に敵対している人とかだったらしょうがないのかもしれないけど、
斎藤　★え、テキ・テキ？
松本　敵対っていうか・まあ、なんか俺がそういう、仲悪い関係とかだったらまあ、向こうが悪い態度でもしょうがないかな・とは思うんすけど、「え、なんか俺、悪いことしました？」って感じなんすよ。「なんで？」っていうのがもう全然わかんなくて。

一拍。

斉藤　そんでなに。
松本　はい。
斉藤　え、どうすんのこれから？
松本　知らないっすよ。っていうかわかんないすよ。だから相談してんじゃないすか、［どうしたらいいかなあって。
斉藤　［ああ、ああ、ああ。そうだったんだ。これ相談だったんだ。
松本　え？　そうっすよだから。
斉藤　わかった・わかった＝
松本　なんすか。
斉藤　＝え、なに、ま、まだ好きなの、――その人？
松本　や・好きとかじゃないですよ。なんていうかもう、なんだったら憎んでますよ。
斉藤　憎んでる。
松本　だからまあ、仮にこのあと間違いがあって俺が殺人とかで捕まるとしたら、そんときは＝
斉藤　サツ・殺人？
松本　＝あいつを殺してるかな、っていう、そんぐらいの勢いっすよ。

斉藤　え、え？　殺人？
松本　や、たとえば、たとえばたとえば、
斉藤　★いや、殺人ってでも・そんな急にお前。
松本　★だからたとえばっすよ・なんすか。
斉藤　だってそんな・［ええ？
松本　［ええ？　――まあ、だからあれすよ、そんぐらいのだから、好きとかそういう感情とは全然関係ないっていうか、［遠くにいるっていうことっすよ。
斉藤　［え・え・え？　じゃあさ・じゃあさ・じゃあさ、
松本　★はい・はい・はい。
斉藤　え・え、その人と急に付き合えるってなっても、殺すの？
松本　いや、殺さないっすよ。なんすか。例え話なんですからやめてくださいよ、そういうなんか、実際にヤろうとしてるー、みたいな感じの［言い方して、
斉藤　［え・え・じゃあ、どうすんの？　付き合えるってなったら？

一拍。

松本　それはまたちょっと考えますけど。
斉藤　★いやいやいやいやいや！　好きとかそういう感覚じゃないって、
松本　いや、わかんないっすよ、だってそういうことになればそりゃ今とはその／だって状況が変わってるわけじゃないですか、斉藤さんのなんかその、例え話の中では、

と、宇多川、宿の外から登場。

◎クモの巣　2

宇多川　どーもー。おつかれーす。
松本　おーす。［あれ、早いっすね。
斉藤　［お疲れさんでーす。
宇多川　あの、ビール勝手口のとこ置いといたんだけど、いいかな？
斉藤　ああ、ああ、大丈夫、あそこ置いといてくれれば。
宇多川　中、入れちゃっとく？
松本　ああ、いや、あとはやっときますんで。
宇多川　ああ、そうっすか。［じゃあ、まあ――。
松本　［はい、ありがとうございます。

宇多川は斉藤のいじっているパソコンを覗き込み、

宇多川　はあー。いいなあ、暇そうで。

斉藤　いやいやいや、そんなことないって、今日は。な？
松本　［はい。今日は。
宇多川　［あ、そう？
斉藤　いや、だって、お客さん来るし／あ、ていうか今日あれだよ、河井が来るんだよ。
宇多川　ええ？　河井って、え・なになに、あの河井くん？＝
斉藤　そうそう。あの河井。
宇多川　＝めちゃくちゃ久しぶりじゃない？
斉藤　いやだから、そうなん［だよ・そう。
松本　（斉藤に）［え・え・え、誰っすか、カワイ？
斉藤　いや、前になんかそういうやつがいてさ。
宇多川　★ああ、そっか。松本くん知らないんだっけ、河井くん？
松本　［知らない知らない。
斉藤　［だって、あいつ居なくなってからだもん、こいつ来たの。
宇多川　そっかそっか。入れ違いで。
斉藤　そうそう。
宇多川　え、今なにやってんの、河井くん？
斉藤　え、だからなんか、普通に、就職して会社員やってんのよ。
松本　［へー。
宇多川　［おお、すごい。ついにクモの巣からもそんな有為な人材が。
松本　［［ユーイ？　ユーイ？
斉藤　［［ただの会社員だよ。［サラリーマン。
宇多川　［え、え、それってなに・なんの会社なの？
斉藤　知らね。なんかテーマパークを作ってるとかなんとか言ってたけど、
宇多川　テーマパーク？
斉藤　違うか。ショッピングモール？　［とかそんな感じ＝
宇多川　［んん？
斉藤　＝でもあれだってよ、なんか黙っててくれって言うからあんま話せないと思うけどね。
宇多川　え？　黙ってるって何を？
斉藤　だからなに、あいつがうちで働いてたってことを。
宇多川　ええ？　どうして？
斉藤　知らねえよ。向こうがそういうんだから。
宇多川　へー。
斉藤　――まあ、あれなんじゃねえの、こういうとこで勤めてたっていうのが、あんまり世間的によくないっていうかさ。
宇多川　そんなことないでしょ別に。
斉藤　実際隠したいっていうんだからしょうがないでしょ。
宇多川　じゃあ、え？　他人のフリするの？　知らない感じで？
斉藤　まあ、まあ、そういうことになるんじゃない？

一拍。

宇多川　残念だね。
斉藤　ええ？
宇多川　なんか。せっかく思い出話できると思ったのに。
斉藤　★いいんだよそんなことは。まあ、あれだよ、だから忙しいんだようちらも。あいつが
　なんか会社の同僚連れて来るとかって言うんでさ＝
宇多川　へえ、同僚。
斉藤　＝それが五人連れだっていうんだから、
宇多川　おお、五人？　ええ、そんなのここ始まって以来なんじゃない？
斉藤　おうおうおう。
松本　★んなこたーない。
斉藤　バカにしてんじゃねーぞ。
宇多川　ええ、でもかなり珍しいんじゃないの？
斉藤　いや、そうでもないよ＝
松本　そうっすよね。
斉藤　＝先週だって三人連れが来てるんだしさ。
松本　ああ、来た来た。はい。
宇多川　ま・でも、それだけでしょ？　先週から。

一拍。

斉藤　んー、まあ、言うなれば。
松本　言うなればそういうことっすね。
宇多川　★ホラやっぱり。というか、よく成り立ってるよね、ここ。
斉藤　や、だから成り立ってないんだよ。
宇多川　あ、そうなの？　成り立ってない？　［へー。
松本　［まあねえ。
斉藤　［儲かってはないよ、まあ。
宇多川　ああ、そりゃあ、まあ――。
斉藤　だからあれよ。もうすぐ、ここ、ね。
松本　はい。
宇多川　ん？　なに、もうすぐ？
斉藤　や、潰れるっていうか、まあ、――［そういう感じ。
宇多川　（明るく）［ああ、そうなの？　潰れちゃうの？　えー？
松本　なんで嬉しそうなの。
宇多川　いやいやいや、そんなこと無いですよ。ああ、そう。潰れちゃうの？＝

松本　うん。
宇多川　＝そんじゃなに、ここも取り壊しちゃって――？
斉藤　いや、なんかそれは却ってホラ、壊すなら壊すでお金かかっちゃうでしょ？＝
宇多川　ああ。
斉藤　＝だからまあ、ここは放置して。
松本　お店の営業としては、来月いっぱいでおしまいになる、［っていう。
宇多川　［ああ、そうなの？　や、それはまあ、――ああ、寂しくなりますねえ。
松本　――思ってもないくせに。
斉藤　［ははは。
宇多川　［いや、思ってるって！　ああ、そうなんだあ。

一泊。

宇多川　え、そんでどうすんの？　お二人は？
斉藤　まあ、だからホラ、就活して。

松本、読んでいた雑誌を掲げる。求人情報誌である。

宇多川　ああ、そう。あ・じゃあもうホントに／へえ、――なくなっ［ちゃうんだねえ。
松本　［まあまあ、宇多川さんにもいろいろとお世話になりまして。
宇多川　★いやいやいや、止めてよそんな！　ええ？　それはなに、園田さんがそう決めたってこと？
斉藤　そりゃあ、［まあ。
松本　［僕らが決めることじゃないですから。
宇多川　ああ、そうですか。じゃあ――／なんだか、えー。そうですか。勿体ないねえ、なんか。

松本、斉藤、宇多川を見る。

宇多川　いや、無責任なことといってるけどね。
斉藤　まあ、ねえ。
松本　こういうご時勢だからね。
斉藤　★（松本に）だから違うよ！　そうだ、そもそもは園田さんになんか贈り物しようって［話してたじゃん。
松本　［ああ、ああ、そうだ・そうだ・そうだ。
斉藤　なんか松本の話にズレていっちゃったから。
松本　ええ、なんすか、俺のせいっすか？
斉藤　［や、そうじゃないけど。

宇多川　［あー、園田さんになに、今までありがとう的な？
斉藤　そうそうそう。今までありがとう的な、なんか贈ったら喜ぶんじゃないかっていって、で、こいつが何言っても反対するからさ、
宇多川　［ああ、
松本　［いや、だって斉藤さんヘンなことばっか言うんだもん。あれだよ、あれ、王冠＝＝王冠？
宇多川　あるじゃないですか、なんかあの王様とかが被る、
松本　はいはいはい、［あるね。
宇多川　［あれをさ、特別に作って贈るのはどうか、とかいって＝
松本　＝それはだから、冗談でいったやつだろ。
斉藤　★嘘だ！　本気だったじゃないですか？　「（真似）俺だったらうれしいけどねー」って、
松本　ああ、斉藤さんだったら。
宇多川　いや、言ったけど！　違う・俺じゃなくて、園田さんが言ってたんだよ、なんかテレビでそういうの出てきた時にさ、ああ、こういうのあったら良いなあとかいってて、
斉藤　それこそ冗談って言ったんじゃないの？
宇多川　いや、あれは本気だった、そういうとこあんだよ、あの人、
斉藤　だったらやっぱ斉藤さんも本気で言ってるんじゃないですか？
松本　いや、それはまあ、んー、まあ、――そうか。――そうだな。言ったな。［本気で言った。
斉藤　［そうすよ。本気だった！　［［本気だった！
松本　［［本気だった、本気だった、ああああ、本気だったさァ！
斉藤　はい。
松本　じゃあ、お前は何がいいと思うんだよ？
斉藤　いやだから、それはわかんないですけど、
松本　ホラ！　ずるいんだよ。自分では何もアイディア出さないでケチばっかつけやがって、
斉藤　や、そういうわけじゃないですけど、なんか園田さん照れ屋っていうか、よっぽどうまくやんないと、かえって引いちゃうんじゃないかって、
松本　まあねまあね、それはあるだろうね、あの人は。
宇多川

と、一人の男が登場。園田である。

◎クモの巣　3

園田　おつかれー。
松本　あ、［お疲れ様です。
斉藤　［お疲れ様です。
園田　――ああ、なに来てたんだ？　［早いね。

宇多川　［はい。もう早く来ちゃおうかと思いまして。
園田　なに、外に置いといてくれた？
宇多川　ああ、はい。勝手口のとこに、
園田　ありがとね。（松本に）そんじゃ、もういらしたから、ホラ、［お出迎えして。
斉藤　［ああ、え？　そうなんですか？
園田　なんで片付けておかねえんだよ、もう。

斉藤、退場。
松本、立ち上がりあたりを片付けながら、

松本　ああ、すみませんあの、今やろうと思ってたんですけど、
園田　★出た出た出た。
松本　★はい、はい、はい。すんません。
園田　（宇多川に）またお前がずっとダベってたんだろ。
宇多川　★いやいやいや！　今来たところですよ。ホントに、ホントに！

別天地

◎別天地　到着

江田　あ、もう、ふとももが、もう。
河井　ヤバいっすね。
江田　パツパツになってんだけど。
河井　☆俺もヤバいっす。何回か足つりかけてました。
江田　あ、へー。河井でもそうなんだ？
河井　言うて今日かなりハードでしたよ。
江田　そっかそっか。

斉藤　☆ああ、どうぞどうぞ、こちらに、［どうぞおかけになって。
金沢　［ああ、どうもどうも。すみません。
江田　おお、おお、なんかいい感じじゃん、ね。
猪俣　やあ、いいっすね。山来たなって感じしますね。
針谷　ねえ、なんか落ち着いた感じで。

園田　やあ、もっと遅くなるかと思っちゃってまして、まだちょっと準備がアレなんですけど、
金沢　ああ、大丈夫です大丈夫です。
園田　すみませんね、ホント。男ばっかりのむさ苦しい宿になっちゃってまして。

江田　大丈夫っすよ。全然大丈夫っす。
園田　なにせこう少人数でやってますもんで。
猪俣　いや、いいじゃないですかなんかその、手探りな感じが。
針谷　☆☆手探り？
猪俣　いや、手探り違うか。手作りな感じが。
針谷　全然違うでしょそれ、
猪俣　うん、[ぜんぜん違ったね。
園田　[いやいやいや、でも実際手探りな感じですよ。リノベーションしてどうだこうだなんて
　やってみてはいるんですけどね、いや、なかなかどうもね。
針谷　ああ、そうですか？　いろいろご苦労あったり、
園田　いやいやそんなそんな。

斎藤　☆☆お手荷物失礼します。
江田　俺はいいっす
斎藤　(針谷に)こちら——

金沢　ああ、こっちこそ、すみませんでした。予定より随分がんばっちゃったっていうか＝
園田　いやいや、いいんですいいんです、
金沢　＝ホラあの、雨降るっていうんで、
園田　はいはいはい。結構、大変だっだんじゃないですか、ここまで？
針谷　まあまあ、
猪俣　[やあしんどかったですー。
金沢　[いや、ちょっと、限界が近いっていうか、ねえ。
松本　でも急いで正解でしたよ、ホント。なんか台風来てるっていうから、
斉藤　ああ、ね。台風がって聞いて僕らも。
園田　☆☆☆(松本に)おい、ちょっと。松本・松本。
松本　はい、はい？
園田　早くお前、飲み物お出しして＝
松本　ああ、はい。
園田　＝麦茶かなんかでよろしいですか？　それとも——？
江田　ああ、じゃあ、もうビールいっちゃおうよ。
猪俣　★ハイボールとかあります？＝
河井　＝いやいや、まずはあの、お茶でお願いします。
園田　はい。お茶で。
江田　[えー？
猪俣　[なんでなんで？
河井　お茶でお願いします。
園田　かしこまりました。

金沢　☆☆☆ああ、腰がちょっと――。
針谷　大丈夫？　まあ、山はね。ちょっと。慣れてないと。
金沢　おお、なんかハリー、余裕そうだな。
針谷　まあまあまあ。ちょくちょく来てるから。

江田　ちょっ・どういうことよそれ。
河井　お酒はお風呂入ってからでいいじゃないですか？
江田　［えー？　なんでよ？
猪俣　［いやいやいや、まずビールでしょ？
河井　違います違います。空きっ腹にいきなりビール行かない方がいいんですよ。
金沢　はあ？　なにいってんの？
河井　★いや、危険なんですよ、［ホントに。
猪俣　［飲み会だってなんだってとりあえず一杯いくでしょ？
河井　あ、だから、あれは間違いです。血中のアルコール度数一気に上がっちゃいますんで。
　それに今は大分、汗もかいてますし。みなさん軽く脱水状態になっちゃってる可能性高いんで、まずは水分とらないと。
江田　だからこそビールなんじゃないの？
猪俣　［そうそう。
河井　ビールは利尿作用で水分出ていっちゃいますから。
猪俣　（大きくゆっくり）こいつ連れてきたの誰ーッ？
河井　★いや、あとで沢山飲みましょうって。
猪俣　わかったよわかったよ、

河井、早速靴下を脱ぎ、荷物からマッサージ器具を取り出して足を揉み始める。

江田　☆（河井に）お、なに足やっちゃった？
河井　いやいや、全然全然＝
江田　ああ、そう？
河井　＝ちゃんとケアしないとあとあと疲れ残っちゃいますんで、
江田　お、☆☆なになに、本格的なこといってんじゃん？
河井　★いやいやいや、☆☆☆だからこれ結構本格的なライドですから＝
江田　確かに。
河井　＝みなさんもやっとかないとあとあと動けなくなっちゃいますよ。
斉藤　それじゃ、お飲み物こちらに？
金沢　☆ああ、はいはい。ありがとうございます。

猪俣　☆☆あ、これ結構来てるわ。
金沢　★ね、ね、ね、☆☆☆なんか乗ってる時はイケてるかと思ってたけど、
猪俣　降りてみたら／あー、結構これ。

園田　お風呂入っちゃいます？　お料理先お出ししていいんですけど、
金沢　あー、どうします？
猪俣　いや、ちょっと、とりあえず休んで、
江田　そうそうそう、とりあえず、ね。
園田　わかりました、わかりました。もう二階はいつでも入れるようになってますんで。
金沢　ああ、はいはい。ありがとうございます。
江田　ああ、この階段で？

園田　ええ。ホントはバーベキューとかもやっていただけるようになってるんですけど＝
金沢　＝ああ、今日はちょっと、［ね。
針谷　［風がね、もう結構来てるから。
河井　風は実際、――しかも針谷さんの（ホイール）結構なリムハイなんで、普通に持ってかれますから。
針谷　ね、いつもより全然、いや、こんな変わるディープリム？　って。
金沢　［いや、俺も俺も。今日がね、すごいんだよ＝
河井　［はい。
金沢　＝（ハンドルを取られる動作）おお、おお、おお、ってなっちゃって。
針谷　あ、そう？
金沢　全然、（俺は）山岳用のホイール履いてっけど、めっちゃ（風に）あおられて、
針谷　ああ、
河井　まあ、だから急いで正解でしたよ。このあとすごくなるらしいんで。

◎別天地　露見　1

江田　ああ、そんでなんだっけ？
猪俣　え？
江田　や、さっきの話。
猪俣　あー、あれか。あれはまあ、
江田　ええ？　なんだよ。
猪俣　いやあ、なんていうか、まあ、あの、前からの流れの話なんだけど、
江田　うん。

一拍。

猪俣　や・ね、
江田　うん。
猪俣　まーたなんか面倒くさい感じになっちゃってて。
江田　［あ、ホントに？
金沢　［ハハハ。
猪俣　やあ、そうなんだよ、またなんだよ。
金沢　ええ？
江田　大丈夫なの、それ？
猪俣　や・なんか結構ね、なに？　依存型、ってわけじゃないけどなんかね。［大変ですわこれは。
江田　［あー。
金沢　［ああ。
針谷　え、なんなの？　何の話？
江田　や・女の話よ。
猪俣　そうそう。
針谷　え・え、彼女いんの？
猪俣　いるいる。やー、言ってないっけ？
針谷　★いんの？　いんの？　え、いつから？
猪俣　いつだっけな――。
江田　★（金沢に）あれ、ハリーに言ってない――。
金沢　や、ハリー言ったんじゃ――。
針谷　え・え・聞いてないよ。え・いついついつできたの？
猪俣　えーと、さーん四ヶ月くらい前から？　ま、つきあったのはそんぐらいだね。うん。
針谷　ああ、そう＝
猪俣　うん。
針谷　＝へー。

一拍。

針谷　え・え？　金沢も江田さんも知ってたんだ？
江田　［ああ、うん。
金沢　［知ってた知ってた知ってた。
針谷　あ、そうなんだ。
猪俣　★ごめんごめんごめん。
針谷　――（明るく）ええ、ちょっと、ええ？　なになにちょっ、教えてよ教えてよ。
猪俣　そんな大したアレじゃないよ別に。
針谷　え、なになになに、え、誰、誰？　知ってる、知ってる人？　知ってる人？

三人、顔を見合わせる。

猪俣　ああ。
針谷　ええ、なになに？
金沢　ははは。
猪俣　ごめんごめん。

江田、金沢、猪俣、笑う。

江田　［そうだよ。
金沢　［そうだよ。
江田　そうだよ。
金沢　そうだよ。［そうそう。
江田　［そうそうそう、いやいやいや、
猪俣　え、でも知らない――あれ？　知ってんのかな？
江田　いや、知らないよ。
猪俣　知らないか。
針谷　知らない人？
猪俣　知らない人だから。
針谷　え、え、誰々、名前は？　名前は？
猪俣　名前？

一拍。

江田　いや、言わないでもそれは――
針谷　★なんで！
猪俣　変な感じじゃん名前だけ知られてんの。
針谷　え、じゃあ、どこの誰かいってくれたって／え・だって二人は知ってるんでしょう？
猪俣　いやさ、俺話したからさ。
針谷　え、じゃあ僕にも話してくれたっていいじゃん。
猪俣　★そうかそうかそうか。そりゃあそうか。
針谷　★誰、誰、誰？　えー、どんな人？＝
猪俣　＝どんな人？　んー。いやでも結構若いよ。
針谷　あ、えー。
猪俣　年下年下。七、八個ぐらい下かな。
針谷　★えー？　え、なに、どこで知り合うのそんな人？

一拍。

江田　［いやいやいや。
金沢　［ははははは。
猪俣　どうしたらいいの？
江田　言うっきゃないよそれは。とりあえず相手はでも、だってもう、
針谷　★ええー、なになになに？
江田　ちょっと、知らないよ。
猪俣　教える？　教える？　［教える？
金沢　［おうおうおう。
針谷　★教えて教えて。

間。

猪俣　やあ、だからさ。――あー、ミライちゃん。わかるかな？
針谷　え・え・え？　ミライちゃん？
猪俣　わかる？
針谷　いや、わかるっていうか、え・え・なにミライちゃん？
猪俣　え、加藤。
針谷　加藤ミライちゃん。あ、え？　あ、あ、は、は、はい。あ、ああ、はいはい。
猪俣　（金沢、江田に）もうあと知らないっすよ。
金沢　いやいやいや、
江田　いや、違うのよ。違う違う、［そういうんじゃなくて、まあ、
金沢　［そうそうそう、そういうんじゃなくて、全然、
針谷　え、え、知らないわけないよね。知らないわけはないでしょ、だって・ええ？　待って
　待って＝
猪俣　いやいや、だってほら、
針谷　＝だってさ・だってさ・だってさ、
猪俣　どの子が幹事やってたか、とかわかんないから。
針谷　★いやいやいや、ミライちゃんとは僕が連絡とってたんだけど、
猪俣　ああ、そうなんだ。
針谷　え・だから（僕が）知らないわけないでしょ。って（君らも）知ってるでしょだって？
猪俣　――（金沢、江田に）だから俺もうあと知らないっすよ。
金沢　［いやいやいや。
江田　［いや、だから。
針谷　え、え、マ、え、どこで、え、なにで知り得るの？　なんか別にみんなにさ、なんか連
　絡先とか／
江田　ちが、違う、ホントにこれは違うんだよ、そうそうそう、そうなんだけど、とりあえず
　この空気は、まあ、［よくない。

猪俣　［まあまあまあ、そうだよな。［［ごめんごめんごめん。
江田　［［ホント、や、もうホントにごめん。
金沢　［［ごめんね。
猪俣　それはもう、ごめんごめん。
江田　だからハリーにこれはホント信じて欲しいんだけど、――別に騙すとかそういうことは、一切ない。
金沢　［そう。
猪俣　［ないないない。
針谷　え・え・ちと待・え、じゃなくて・え、わかりました・あ・じゃあじゃあ、別にあやまん／謝罪とか別にいいから、
猪俣　ごめんごめん。
針谷　どこ／どのようにして、出会ったの？

園田、少し前から舞台端に登場していて、

園田　すみませんあのー、
金沢　はいはい？
園田　それじゃお料理は、六時とか［それぐらいの感じでよろしいですかね？
金沢　［ああー、どうする？
江田　まあ、いいんじゃないそんぐらいで？
金沢　適当だな。
江田　★いやいや、ちょっと一服してそんぐらいでさ、
金沢　（園田に）じゃあ、まあ、そんな感じで。
園田　はい、かしこまりました。

園田、退場。

猪俣　――（金沢、江田に）俺言っていいの？
江田　いや、いいよ。もう、いや、まあいいよ。
猪俣　え？　ちょっと、先に言っとくよ、じゃあ。
針谷　うん。
猪俣　――ごめんね。

一拍。

針谷　［なにが？
江田　［ちょっまあ、それはお前、
猪俣　ダメなの？　ダメなの？

金沢　いや、だからまあ、先に三人で謝っておこう。

三人謝る。

江田　それはまあ、ホントごめん。
金沢　★［ごめんね。
猪俣　［それはちょっとごめん。
金沢　あとまあ、そんなにナーバスになんないで欲しいなっていう、
猪俣　こんな今・大体的に謝ったからこんな空気になっちゃったけど、まあ、あの、
針谷　いや、だから別に謝罪なんか求めてないんだけど、え＝
猪俣　あ、だからまあ、
針谷　＝どのようにして、出会ったの？
猪俣　先言っちゃうと・だからホラ、解散になったでしょ、あの日？
針谷　――確かに確かに。人数一人足りないからって＝
猪俣　そうそうそう。
針谷　＝あの、キャンプ自体がなくなったよね。女の子が一人来れなくなったからって＝
猪俣　そうそうそう。
針谷　＝で、で、キャンプのあと・どのようにして出会ったの？
猪俣　で、だからあん時・解散ってなったよね？＝
針谷　うん。
猪俣　＝で、針谷、先帰っちゃったでしょ、スッと。
針谷　――いや、スッとも何もだって、解散ね、っていってみんなで解散したじゃない。
猪俣　★ま・ま・ま・そうなんだけど、俺らちょっとあのあともダラダラしてて・そんで、――「あれ、三人か――」みたいな。ちょっと、ね＝
江田　まあ、そうそう。
猪俣　＝人数ピッタリみたいな。
江田　それで車もまあ、あるし、
金沢　で、江田ちゃん車出すかァ、っって。
猪俣　［そうそうそう。
江田　［ハリー帰っちゃったし、ぐらいな、
金沢　そうそうそう！
猪俣　★これは全然悪い意味とかじゃなくて・だからハリー仲間外れとかじゃなくて・そう。
江田　ぐらいな感じだったのほんと。
金沢　［そうそう！
猪俣　［そう、四人の中で一人選ぶのはちょっと俺らも心苦しかったから「解散」ってあん時一回なったんだけど、ハリーちょっと早く帰りたそうだったし、
針谷　ええ？　そんな。
江田　いや、行っちゃったのよ、とにかく。で、ホントにただ、ただ行ったの。キャンプ場。

金沢　フラットに。［フラットに。
江田　［フラットフラット。
猪俣　［だったねえ。あれはフラットだった。そうだね。
江田　そしたらなんか金沢があれ、呼んでたんでしょ？
猪俣　★そうそうそう。
江田　金沢がなんか呼んじゃってたんだよ、向こうの――。
針谷　どういうこと？
江田　いや、だから、わかんないけど、いや、俺もそれは、なんか、（金沢を見て）ねえ。
金沢　え・え・え？
江田　いや、ちゃうちゃうちゃう、［違うよ・違うよ・違うよ。
猪俣　［まあ・まあ・まあ・まあ、
針谷　全然わかんない。
江田　あの、だから、ハリーが連絡取ってるって思ってたから、まあ、三人とも、ね。
猪俣　まあ、それはそうね。
江田　うん。でまあ、野郎だけで、三人だけで、まあ行こうかあ、みたいな話で行ったあ、行ったあ、
針谷　なにに？　なにに？
江田　だからそのキャンプ場に行ったァ、行きました、そしたら、――居た、［みたいな。
金沢　［そうそうそう。だからホント、なんかホント、――まあ、まあ、居たあってなって。

針谷以外、笑う。

江田　居たんだよ。ホント。で、まあ、居たんだったらまあ、三・三――みたいな感じだよね？
猪俣　まあ、なる、よね。それはだから、帰ることはない。
金沢　［そうそうそう。
江田　［帰ることはない。
金沢　そこで解散っておかしくないだって？

一拍。

針谷　え・じゃあさ、そこで「呼ぶ」っていう選択肢はないの、僕を？
金沢　［いやいやいや、そうじゃなくてさ。
江田　［まあ、だから違うんだよ。それもまあ、あったんだけど、［［や・まあ＝
金沢　［［雨結構降ってたし。
江田　＝結果としては、その、ラフティングとかもなんか、金沢が予約しちゃったんだけど、そのあと＝
針谷　うん、うん。

江田　＝そのだから、ラフティングも六人乗りだったし、
針谷　［うん。
金沢　［そうねそうね。
江田　まあもう、しょうがなくない？　みたいな。でもこれはホント、まあ、なんていうかもう金沢だってもう、ひ、ひ、ねひょ？
金沢　――ええ？
江田　★や、なんか！　（猪俣に）違うんだよね、
猪俣　（江田に）なんだ、大丈夫かよ。
江田　違う違う違う。大丈夫大丈夫。違う、違うのよ。
針谷　え・え・え・何が違うの？　何が違うの？
江田　や、違う。そういうんじゃなくて――。／や・なんかもうだってハリー、ヘンな感じなんだもんだってー、
金沢　★そうだね、そうだね。
江田　そういう感じになりたくないし、なんか、あん時はホント三人ともなんかこう、ヘンなテンションだったのよ＝
金沢　［ははは。
江田　＝で、なんとかこれをさ、
猪俣　やあまあ、盛り上がっちゃってたのは確か。
江田　なんとかしようみたいのがあって、
金沢　★そうね、盛り上がってたよね、［盛り上がったんだよね。
猪俣　［それはそう。
江田　［盛り上がってた。
猪俣　うん。
金沢　だから――。

間。

針谷　フフ、え、――なん／それなんで言わないの？
猪俣　［いやだから、
江田　［いやだから、
金沢　タイミング無かった、［っていう、
猪俣　［申し訳ない気持ちはもちろんあったから、って、
金沢　うん、そう。
猪俣　それすぐ言ってもなんでしょ？　知らないなら知らない方がまだいいかな、っていうのもあるしさ。
江田　そう、まあ、［そうそうそう。
猪俣　［無理になんかそんなねえ、関係こじれるようなこと言う必要もないし、もうバレちゃったけど、

針谷　え、あ、へー。――あ、そう。

針谷、机の上に置いたある雑誌を手に取って、以後、弄んでいる。

猪俣　うん。

一拍。

江田　いや、けどまあね。なんかだから、ちょっ／俺らもちょっと話し合ったんだよね？

金沢　そうそうそう。

江田　だからオレ・俺とかはちょっとハリーにも言っといた方がいいよ、って言ってて。で、猪俣も言ってたあ、――［かなあ？

猪俣　［言った、かな。

江田　そう、でー、

針谷　★言ったの？　言ってないの？

江田　で、で、違う、で、

針谷　★言ったの？　言ってないの？

猪俣　［いや、ん？

江田　［や、まあ、言ってたような気はするけど、――違うでも、これは誰が悪いとかじゃなくて、ホント誰が悪いとかそういうんじゃなくて、金沢がだからそういう、コミュ力っていうか上手でしょ、俺らよりさ。

猪俣　★まあねまあね、

江田　で、まあ、金沢がだから、あんまハリーに言わねえ方がいいんじゃねえか、みたいなことを／いや・でもホント［これは誰が悪いとかじゃなくて、

針谷　［え・え・え・え、じゃあさじゃあさじゃあさじゃあさ、や・でもそれはさ、向こうにも解散ていう連絡を入れてるわけでしょ？

江田　そう、いや、

針谷　でさ、僕にだけ入れないわけ？＝

江田　そう、そう、

針谷　＝それはさ、どういうことなの？

猪俣　（針谷を触って）ごめん、ごめんてだから。

針谷　★だからいいってそういうのは、別に怒ってないから。で・なんなの？　だって、向こうも解散って思ってるわけでしょ？　で、会うじゃん。そんでさ、僕居ないじゃん。（僕が）幹事じゃん。居ないじゃん。で、向こうはどう思ったわけ？　なんていったの？

間。

江田　いや、それは、なん／割りと、あんまり、

猪俣　そう、だからあんま針谷のこと触れる感じじゃなかったっていうか、

江田　★そう、だからそれはなん、か、なんかねー。そこはなんか、普通だったんだよ。
猪俣　そうそうそう、普通・普通のなんか、
針谷　え・でも、でもさ・でもさ・でもさ。え、そのさ、ミライちゃんにたちにはさ、針谷は黙っとこみたいなことを言ったの？
江田　――ああ、いや、
猪俣　言ってない。
金沢　［言ってない・言ってない・言ってない。
江田　［言ってない。
針谷　それはおかしくない？
江田　いや、でもホント言って無くて、
金沢　うん。
針谷　だって僕、翌日あの、お詫びの連絡したんだよ、ミライちゃんに？
猪俣　ああ、
針谷　昨日は人数合わなくなっちゃってごめんねって。キャンプ出来なくなっちゃってごめんねって。そしたら、
猪俣　★それは多分、気ィ遣ったんじゃないの？　多分ね。いや、わかんないよ実際なに、ミライちゃんがどう思ってたかは、［わかんないけど、
針谷　［少なくともさ、ミライちゃんは／や・他の子は知らないけど、え・ミライちゃんはさ、あのー、（僕が）ハブられてるみたいな風になってんの知ってるわけでしょ？　［知ってたわけだよね？
猪俣　［いやいやいや、そんなハブってるとかって言うと、ねえ。
針谷　★え、でも事実そうじゃん？

河井、お茶をこぼす。

猪俣　［ああー。
江田　［あー、あー、あー。
河井　［すみません、あ、や、［［すみません。すみません。自分で拭きますんで。
猪俣　［［ごめんごめん。
金沢　布巾布巾。
針谷　え、事実ハブってたんじゃないの？

一拍。

針谷　違う？　違う？　違う？　違う？
江田　そうなんか、違う、違う、いや、ホントこれ、別にホントちょっと止めてねなんかその、関係性とかをヘンに壊したくないから。ホント止めてね、［ただ、なんていうか、
針谷　「なになになに？　全然わかんない、

江田　★まず、ホント止めてね、［だって。
針谷　［や・だからなにを？
江田　いや、だってさー。なんかこう、ずっとこうやって、まあ、ずっとこのメンツでやって
　きたわけじゃない、大学時代からずっと？＝
針谷　うん。
江田　＝今日はそっちの、河井くんも入れてだけどさ、や、確かに隠し事はまあ、ぶっちゃけ
　あっ――
猪俣　――った、
江田　たんだけど、
猪俣　うん、まあまあ、
金沢　それに関しては、
江田　★それに関しては、なんかまあ、ちょっと、正直ドキドキはしてんのよ、いま＝
猪俣　そうそうそう。
江田　＝だから、まあ、それは上手くハリーの中で処理をしてほしいなって思うんだけど、
針谷　何何何・は？　［処理？
江田　［なんかあん時はなんか、――違う、ホント別に誰が悪いとかじゃなくて、うまくリー
　ドしてくれたのよ金沢が。
金沢　ええ？
江田　なんかやったんでしょ、そういう意味ではだから？　［やってくれたんでしょ？
金沢　［え・え・え・え・え？
針谷　じゃなに、金沢が口止めしてたっていうこと？　［ミライちゃんたちにも？
金沢　［いやいやいやいや、［［俺は全然そういう、
江田　［［そのなんか、話がヘンに広がんないようにみたいな、だからなに、あのー、大人の
　計らいみたいなことだよね。
金沢　え？　――ああ、いや、だからそういうね、角が立たないようなやつをね。パッと。

一拍。

針谷　いま現に立ってんじゃん。
金沢　――うん、まあ、そう［なんだけど、
猪俣　［や・だから、俺らもだから、どういう風に伝えればいいかも難しいしさ、黙っといた
　方がハリーのためとも思うじゃない？
針谷　★（驚いて）いやいやいや、［俺のためとかよく言えるなホント、
猪俣　［あくまで・あくまで罪悪感を抱えつつも、［［この数ヶ月が経ったっていう、
針谷　［［そもそもさ、そもそも、その場で呼べば良かったんじゃないの？
江田　違う・だから、それは、こんなことって思うかもしれないけど、――ラフティングが六
　人乗りだったんだよ、
猪俣　［そうそう！

金沢　［そう、（舟の様子を示し）こういう、こういう感じで、
針谷　そんなの、別れて乗ればさ／
江田　いやだからでも、それは、呼ぼうって意見もあったの、［だから。
猪俣　［あったあったあった。
針谷　★じゃあ呼べばよかったでしょ？

一拍。

江田　や・だって車でさ、もう二時間ぐらいかかってて／
猪俣　一回もうさ、六人で始まってるとこから一人あとから呼ばれるのも気分悪いでしょ？＝
針谷　★いやいやいや、
猪俣　＝そんなことない？　そういう気遣いもあったわけよ。
針谷　それで気分いいんだったらこんなこと言わないよ。
猪俣　あー、じゃ、なに、黙ってたことがいいたいの？　［おかしいだろっていうか＝
針谷　［え・え・え・え？
猪俣　＝その時呼んでて欲しかったのか、あのー、すぐにそのことを言って欲しかったのか？
針谷　だから両方だよ。ＡかつＢだよ。
猪俣　ああ――。

一拍。

江田　いや、ホントそういう、イノッチ責めるみたいにはこう、［なんないで欲しい。
金沢　［そそそそそう。そうなのよ。そうなのよ。
江田　なんていうか＝
針谷　＝え、いつから付き合ってるの？
猪俣　――や・だからさっき言ったとおり、だから、四ヶ月くらい？
針谷　え？　それキャンプのあとに？
猪俣　あとあと。だから、ひと月くらいはちょくちょく会ったりしてて、――うぇーい、みたいなことですよ。
針谷　え、ひと月、――キャンプの時から、ひと月後ぐらいにはもう付き合ってたの？
猪俣　そうね。
針谷　ふーん。え？　――え、――え、――なん、え、
猪俣　ん？
針谷　ん？　ふふ、え？　あはは。――難しいな（笑）
猪俣　なになになに？　ごめんごめん。
針谷　え、え、え、あのさあ。――え？　え？　え・なにも知らないの？
猪俣　――うん？

針谷　――え・だってなにも知らないってことはないでしょ？　だってもう一ヶ月後には付き合ってたんだよね？＝
猪俣　そうよ。え？　［ど・どういうこと？
針谷　［いや、絶対ミライちゃんからなんか聞いてない？
猪俣　――え・何を？
針谷　えー、僕だってさあ、――あの、――あれですよあの、

一拍。

針谷　あははは。――や、ミライちゃんのことが好きでえ、
猪俣　――はいはい［はいはい。
江田　［あー。
針谷　で、連絡、入れて、たんだわー。ふふふ。
猪俣　うんうんうん。
針谷　で、え？　知らないわけないよね？
猪俣　や・まあ、それを俺に、伝えるってことも別に無いんじゃないの？
針谷　★いやいやいやいやいや、え・まったく何も知らないってことは無いでしょ？
猪俣　聞かないでしょ別にそんな、なんか。
針谷　★いいよいいよ別に。怒んないから、絶対怒んないから、ちょっ言ってよ、正直に。正直に言ってよ。
猪俣　聞いてない聞いてない、ホントに＝
針谷　いやいやいや、
猪俣　＝そんな話聞いてもしょうがないでしょ、なんかずっと、このォ、なに？　イノッチとつき合う前にハリー来てたんだよねー、みたいな？　そんなの言う子じゃないでしょ、だって。
針谷　（冷たく）いや、知らないよそんなこと。
猪俣　★だから聞いてなかったんだよ、実際。
金沢　今、こうさ、わかったじゃあ、こう、こじれてるでしょ今。こじれちゃってるから、なんか？
針谷　いや、なんで笑ってんの？
金沢　（笑）いやいや、なんか。ごめん、なんか。

針谷、近くにあったものを投げる。

針谷　どこ見てんだよ。
猪俣　［おうおうおう。
針谷　［ふふふふ。

◎別天地　露見　2

少し離れた場所から園田が声をかけ、

園田　お客様あの、
河井　や、すみませんすみません、
園田　★はい、はい、少しあの、［声のトーンを、
河井　［や、ねえ。そうですよね。声を＝
金沢　＝なんかすみませんお騒がせしちゃって、
園田　まあ、こういう静かな環境の中でその＝
金沢　はいはいはい。
園田　＝楽しんでいただく場所ですから、
金沢　そ・そ・そうですよね、すみません僕らもなんか、
河井　ね、だからみなさんちょっと、落ち着いてこう、［ひとまずちょっと、
江田　［わかりました・わかりました、すみません。
園田　いやいや、こっちもそんな、いいんですけど、

園田、退場。

間。

江田　いやさあ、でもまあ、実際ちょっと複雑なのよ俺も。
針谷　何が？＝
江田　＝だってなんか、［俺の中では。
針谷　［複雑じゃないでしょなにも。
江田　わかんない、俺、結果としてなんか、一番、第三者的にこう（手でジェスチャー）なんかこう、見えてんのよ多分俺が今一番。
金沢　えええ、いやいやいや、全員当事者でしょ？
江田　違う違う違う。多分、多分俺だけドローンみたいな感じで見えてんだけど、
金沢　なにが？　なにが？
江田　いや、でも、でも、そ・そ・そっから観た感じホントにみんな悪くないんだもん。
針谷　――いや、悪くないとかないでしょだって。
江田　違うホント、多分、みんなそれぞれが自分の身と、なんていうの、仲間を守った結果として、やってる感じはしてて、
金沢　★だからまあ、良かったんだよ。――［良かったんだ。
針谷　［どこが仲間、え・僕は少なくとも思われてないでしょ。
江田　［［いや違う、違う、違うのだから。
猪俣　［［いやいやいや、そういう、
針谷　なにが違うの、え、じゃあ説明して。じゃあ、説明して。

江田　［や・だから、
猪俣　［だ・うん。
針谷　見えてんでしょ、ホラ、見えてんだろ、［ドローンみたいによ？＝
金沢　［え？
針谷　＝説明してよ。
江田　や・だから――、いや、――え？

間。

◎別天地　露見　3

針谷　てか、あー、もうなんか、えー、なんかもう、やってらんないわ。――クソだな。ホントおまえらクソだわ＝
金沢　＝いやいやいや、［そういう言い方はよくないよ
江田　［わる、悪かったんだけど、［［ホント、
針谷　［［そういうことがあったのに君らでずっとさ、それをなに、僕にだけは内緒だよ、みたいにしてさ、言うなよ、みたいな感じにして＝
江田　違う、そうじゃなくて、
針谷　＝それでなに、ずっと今日まで何食わぬ顔してさ、それでずっとこうやってツーリングとかまで来て・ずっとやって来てるわけでしょ？
猪俣　いや、ホント・ハリーにそういう思いをさせちゃったのは悪いとは思ってるんだけど、俺らも苦しかったってっていうか＝
針谷　＝はあ？
猪俣　や・何言ってんだって思うのかもしれないけど、それは［ホントで、
針谷　［思うね、思うよ、思うに決まってんだろ。ていうか何だよ、イノッチだよおかしいのは、というかさ、君はだって会社も一緒でさ、そういうなに？　言うチャンスとか他のやつより全然あるわけじゃん？
河井　針谷さん、あの――（お気持ちはわかるんですが声をもう少し下げてください）
猪俣　まあ、そう、それはそう、そうなん［だけど、
針谷　［いや、なのにこのさ、無いよ。この仕打は無いって＝
猪俣　いやいやだから、
針谷　＝というかもう俺、無理だわ。そういうさ、まあ、なんていうの無理だよ、［こういうことがあったあとでまたなに＝
金沢　［そういう言い方しちゃうと、
針谷　＝おつかれーす、ういー、とかいって普通の顔して仕事すんのとかはもう俺は無理だわ。
金沢　いやいや、まあ、無理っていったってね、
江田　［そうそうそう、

河井　［ちょっと、ちょっと声をアレしていただいて、
金沢　いや、ちょっとそれはやりづらくなっちゃうっていうのは［あるかもしれないけど、
針谷　［ちょっと・ちょっと・ちょっーと君らは黙っててくんない？＝
金沢　や・でも、
針谷　＝とりあえずこれ・まずは俺とイノッチの問題だから、でしょ？
金沢　まあ、いや、でもそれは、
江田　俺らの問題でもあると思うし、
金沢　［そうそうそう。
針谷　［というか無理だよ。無理。俺もうなんだ、あれだよ、辞めるよ会社。
江田　え・ええ？

一拍。

金沢　いや、そういうのは違うんじゃ・そ・そういうのは違うよ、
江田　［うんうんうんうん、
針谷　［だって無理でしょ。もう嫌だよこんな、こういうやつとまた一緒にやって・そういうなにこれで・ええ？　何事も無かったですみたいな顔してやんの？　やれるわけないでしょ？　君らは会社違うからいいかもしんないけどさ＝
江田　いやいやいや、
針谷　＝僕は四六時中こいつと顔合わせてこれからも仕事してかなきゃいけないわけでしょ？　［そんなの無理でしょ全然、
江田　［だからまあ、そう、そうなんだけど、これは俺らも悪かったし、何もイノッチが特別なんかしたっていうのとは、
金沢　それにまあ、そういう辞めるとか言っちゃダメだよ。辞めるとかは違うって、イノッチだって困っちゃうでしょ、そんなこといったら、ねえ？

一拍。

猪俣　や、もう、だから、うん。
江田　――んん？
猪俣　いや、まあ、もちろん、そういう、――え？　ハリーがそういう、辞めるとか、っていうことになるんだったら、むしろ、辞めるのは俺だし、
江田　［いやいやいやいや、
金沢　［違う違う違う、ぜんぜん違うでしょ、
猪俣　ああ、違う違う、別に俺が辞めるって話じゃなくて、
江田　★そういうのじゃないじゃん、だって、
猪俣　★わかってるわかってる、
針谷　なんなのだから？＝

猪俣　＝や、――まあ、そりゃさ、そんな別に俺だって悪気があったわけではないけどさ、
針谷　えー？　へー？　悪気が無かったの？　悪気がなくてこうなるの？　むしろやべえよそいつ、
猪俣　★いや、ちょっと聞いてよ＝
針谷　＝聞いてんじゃん、聞かされてるじゃん！　もう散々聞きたくもない話をたくさんよオ！

一拍。

園田　あのー、ちょっともう、よろしいですか、ちょっと？
金沢　ああ、すみませんすみません。
園田　まあ、あの、いろいろご事情あるのかなあ、とは思うんですけどその、
金沢　そ・そうですよね、来ていきなりね、なんかもうすみません。

◎別天地　乱入

と、傍らでずっと聞いていた松本が話し出す、

松本　え・ちょっといいですか？　ちょっとあの、［いいですかちょっと？
園田　［（驚いて）なになになにに？
松本　いや、もうなんていうか、え、酷くないっすか？
金沢　え・え・え？
松本　俺ダメなんすよこういうの、というか、その女もまあ、なんですか、ミライちゃん？＝
江田　＝ミライちゃん、ミライちゃん。
松本　とりあえずそいつ死んどけよって話なんすけど、ていうか、え？　みなさんもなんか、酷くないっすか？

間。

金沢　――ああ、と？
江田　まあ、あの、［なんだろうな、
園田　［お前はちょっといいから、（客に）すみませんちょっと、
松本　いや、よくないっす、よくないっす、［よくないんすよ、
園田　［いいから、いいから・なんだよ、
松本　良くないんすよ！　（猪俣たちに）俺もホントそういう、いや、ずっとそういう、似たような感じで悩んでるから、そういうのは違うんじゃないかなって思ってて＝
園田　なんだ・なんなんだよ？

松本　＝（猪俣たちに）いやだから、俺の場合は付き合ってた女があとあとになって実は結婚してましたァ、とかいって、「はあ？」ってなったっていう話なんですけど、

一拍。

江田　それ全然違う話じゃない？
松本　★同じような話じゃないですか？　裏切り繋がりですよ＝
江田　＝裏切り繋がり？
松本　いやだから、マジでありえねえからそういうのは、
園田　★いいから、いいから黙ってろよちょっと、
金沢　あーと、でもまあ、あの、すみません俺らもあの、うるさくしちゃって申し訳なかったんですけど、まあ、さすがに、――関係ない。――［ですよね？
斉藤　［そうそうそう、［［そうなんですよ。
園田　［［すみませんなんか。
江田　いやいやいや、
斉藤　あー、なんかこいつずっとそういうので悩んでて、
園田　ああ、そうなの？
斉藤　はい。なんか結構・キちゃってるみたいで、
松本　いや、関係ないのはわかってるんですけど、いや、そりゃ俺関係ないですよ。横から急にねえ、呼ばれてないのになんだーッ！　て感じなんですけど、でもこれ関係なくないんですよ、
江田　［ええ？
園田　［お前ちょっとさ、
松本　そういう、そういう行為がね、許されてしまっている世の中になってしまったらですよ？そういうことがアリな世の中になってしまうわけじゃないですか？＝
園田　いいからさ、お前はいったん、
松本　＝いや、全然ナシでしょ、ナシですよ。あるわけねーだろ、バーカ！　［死ねよホントそういうさ、
園田　［おい、いい加減にしとけよ、お前、
松本　おかしいんだよ、そうやってまたね＝
園田　おい、おい、
松本　＝平気で人を裏切ってヘラヘラヘラしてるようなやつらがのさばって？　そんでまたいいやつばっかり割を食って、嫌な思いして、なんなんだよ一体！
園田　落ち着け！　落ち着けよいいから。
松本　――じゃあ、いいんですか？＝
園田　ん？
松本　＝人を裏切っていいんですか？　人を裏切って平気な顔してていいんですか？＝
園田　＝いったん聞け、聞け、

松本　★いい訳があるかっ！　あってたまるか！
園田　聞け・聞け・聞け！　――お前、今、誰の前にいるんだ？　お前の、前に、いるやつは、誰だ？
松本　――園田さんです。
園田　そうだよ。俺だよ。落ち着いて話しなきゃダメだろ。
松本　はい。すみ、すみません。でも俺は、
園田　★いいから・いいから・いいから。黙れちょっと、静かにしろ。

一拍。

斉藤　（客たちに）申し訳ありませんでした。

斉藤、松本を連れて退場。

宇多川　あー、あらららら、
園田　ん？
宇多川　あーいや、――降ってきちゃいましたね。

▼音響　曲in　雨模様のテーマ

場面転換。

【2】　夜。猪俣サイド。

◎なだめる　1

「クモの巣」敷地内の別の場所。
江田、金沢、猪俣がいる。
江田と金沢は近くに、やや離れて猪俣がいる。
三人、黙っている。

江田　なんか、微妙な空気になっちゃったな。ははは。

間。

江田　（同意を求め）なあ？
金沢　針谷は？
江田　ああ、ちょっとどっか行くって言って、
金沢　ええ？　この天気で？
江田　まあ、知らないけど、だから／ああ、なんか案内してもらって、宿の人に。
金沢　おーん、そうなんだ。
江田　うん。なんか河井くんと一緒に。
金沢　ああ、そう。
江田　うん。

間。

江田　困ったなあ。
金沢　というかさ、――あれじゃない？
江田　ん？
金沢　さっきなんか、え、大分俺のせいにしようとしてたよね？
江田　★いやいやいや、
金沢　★してたでしょ？　［もうびっくりしたもん俺。
江田　［違う違う違う違う、それはホント、なんていうの＝
金沢　＝なに？
江田　あれはホラ、ハリーにとってもしんどい場面だったじゃん？
金沢　うん、それがなに？
江田　だからなんていうの、そういう、――悪者っていうかさ＝
金沢　悪者？

江田　＝いや、だからそういうなんか責める相手が居たらまだしも楽になるっていうかさ、あるでしょそういうの。――（猪俣に）なあ？
猪俣　え？　［ああ――。
金沢　［ええ、それってさ、なんか、
江田　★結果、結果、結果としてそのほうが、みんなが、――なんていうの、丸く／仲良くなるっていうかさ、［収まる感じ？
金沢　［んー、まあまあまあ、わかんないこともないけど。
江田　でしょ？　［そういうさ、
金沢　［違う違う違う、そういう時はさ、自分がやるもんでしょ、悪者。

間。

江田　ああ、
金沢　でしょ、普通？
江田　まあねまあね。そう、だね。
金沢　うん。
江田　いや、それはだから、――ごめん。
金沢　うん。
江田　え？　そういう／あ、なに？　謝れっていう話？
金沢　や・まあ、いいけどさ。いんだけど、まあ、実際俺だってまあ、後ろめたい部分はあったわけだし。
江田　（満足気に）はいはいはい。

間。

江田　まあ、細けえ話なんだけどな。ハハ。
金沢　おいおいおい。
江田　そうでしょ実際？　しょうもない、クズみたいな、カスみたいな話だよこんなの。
金沢　★いやいやいや、ダメでしょ、そういうこと言ってちゃ。
江田　まあ、そうなんだけど、［いや、実際のところ。
金沢　［違う違う違う、そういうのは違う。

と、江田は猪俣に近づいて、

江田　おう、おう、イノッチ？
猪俣　ん、ん？
江田　元気出せってホラ。や・なんとかなるってそんな、［なあ？
金沢　［うんうん。だい・大丈夫だよ。

猪俣　うーん。悪ィねなんか。
金沢　［いやいやいや、
江田　［まあ、いいんだけどそういうのは。
金沢　猪俣だけのアレ（責任）じゃないからさ、
猪俣　俺もなんか、――いやあ、ね。伝え方間違えたよな。少なくとも。
江田　んー。そう？
猪俣　や・もうちょっとなんか言い方があったっていうか、なに、同じ状態からのスタートだったとしても、ああいうなんか、ずるずるバレてくみたいな感じじゃなくて＝
金沢　ああ、はいはいはい
猪俣　＝もっと別の言い方だったらハリーもあんなキレなかったろうなとは思うんだよね＝
金沢　＝まあ、確かにね。
猪俣　ね。
金沢　――まあ、正直さ、
猪俣　うん。
金沢　ゼロではなかったじゃない？　やっぱりその、ハリーの思いっていうかさ、どっかでは＝
猪俣　＝ああ、だから、――ハリーがミライちゃんを、ってことが？
金沢　★そうそうそう／や、別にミライちゃんがイノッチに何を言ってたか、とか、それは知らないで言ってるけど、でもまあ、それは置いといたとしてもさ＝
猪俣　＝まあまあまあ、そりゃゼロってわけじゃあなかったよ＝
江田　＝そりゃね。なん、かだって、なあ？　ハリー、だあだ漏れだったもんな、［雰囲気で。
金沢　［そう、だだ漏れ、だった。
猪俣　や、そうなんだよォ。だから言いにくかったっていうのもあんだけど――、んー。
金沢　――まあ、だからこそ言っとかなきゃいけなかったというか＝
猪俣　＝そう、そう、そう！　だから言い方をさあ――、もうちょっとなんか＝
江田　＝いや・でも、結局はまあね、一回こういう修羅場にはなったと思うし。
猪俣　そうかなあ？
江田　いや絶対、一回はなったと思うよ。一回、どんな伝え方であれ。
金沢　いや、だからさ＝
江田　［うん。
猪俣　［なになに？
金沢　＝まあ、すげえまじめなトーンで、すまんかったー、みたいな感じで最初っからいってたら＝
猪俣　そうそうそう！
金沢　＝また違ったかもしんないよね。
猪俣　＝ね！　もう初っ端から全力で謝るトーンでいってたら、
金沢　［だよな。

江田　［そりゃ、うーん、しん・心象はちょっとはね、違ったとは思うけどさ／というか、問題はそういう／まあ、それはそうなんだけど、
金沢　［え、なに？
猪俣　［なんだよ。
江田　問題はこっからどうするかじゃん？
金沢　［それはね。
猪俣　［うん。
江田　だからもう、いったんはこうなっちゃったんだからさ、それはしょうがないとして＝
金沢　んー。
江田　＝あとはこっからどう巻き返すかって話じゃん？＝
金沢　あー、いや、
江田　＝雨降って地固まる、じゃないけどさ、ホラ、これがまた普段のあれだったら全然違ったと思うけど、一応、旅行だしね。

一拍。

猪俣　［んん？
金沢　［え、旅行だからなに？
江田　いや、普段だったら、こういう、こういう雰囲気になったままで、それで解散ってなったらもう、一生会わないでしょ？　そうなっちゃったら最悪＝
金沢　＝一生＝
江田　＝や・最悪ね、最悪の話。
金沢　ま・ま・そうかもね、気まずいし。
江田　★そうそうそう。もうさ、普段だったら会わないし、それで関係自体終わりにしちゃう、っていう場合もあるわけでしょ？
金沢　なるほどね。旅行だから。
江田　そう、旅行だから話すチャンスもあるわけだし？　だからいったん眠ってさ、頭冷やして。
金沢　んー。まあ、ちょっとは落ち着くのかなあ。
江田　そうだよ。絶対。
猪俣　★まあでも——。

一拍。

猪俣　なんだろう。あれ、割りとねえ。
江田　［うん。
金沢　［うん、なに？
猪俣　割りと俺はもう、なん／無理っていうかね、かなりヤバいと思ってるよ。

江田　［まあまあまあ、
金沢　［それはそうなんだけど、
猪俣　違うの違うの、なんていうんだろう。まあ、――そういうやつだから・あいつは。
江田　［ああ、
金沢　［ハリーだからってこと？
猪俣　そうそうそう。なんかもう、いったん怒っちゃうとヤバいから。
金沢　［んー。
江田　［ま・そういうとこも確かにあるけどさ＝
猪俣　でしょ？
江田　＝だけどそんな、――薄い繋がりじゃないじゃん？　なかなか無いよこんな、大学ん時の繋がりで、毎年なんやかんやで会って＝
金沢　まあねえ。
江田　＝だからさっきの会わないとかってのもまあ、薄い関係だったらそうなると思うけど、
金沢　ああ・ああ・ああ、この関係だからね。
江田　［そうそうそう。
猪俣　［え、でもさ、だからこそって話じゃないの？
江田　え？　なになに？
猪俣　いや、繋がりが繋がりだったから怒っちゃったっていうのもあるし。まあ、逆にあそこまでキレないでしょ、普通の関係だったら？
金沢　んー、まあ、そうとも言えるか＝
猪俣　＝と、思うけどね。
金沢　普通だったら怒んないでもう、諦めちゃうっていうか？
猪俣　★そうそうそう。だってそんな、他人に期待してないでしょ基本、人は。
金沢　それは［まあね、
江田　［いやいやいや、そうとは限らないでしょ。大丈夫大丈夫。大丈夫だって。なんとかするから。（金沢に）なあ？　一緒に謝るし、俺らも。
金沢　うんうん。全然全然（俺も一緒に謝るからさ）
猪俣　んー。うん、まあ。ありがとう。

一拍。

江田　めっちゃ凹んでんじゃん（笑）
猪俣　ええ？　［そういうわけじゃないけど、
金沢　［そりゃまあ、凹むでしょ。
江田　（明るく）だよな・だよね・そりゃあね。
金沢　うん。
江田　ハハハハハ。

一拍。

金沢　（江田に）というか、ちょっといいかな？
江田　ん？
金沢　俺、そういうのはちょっと違うと思うんだわ。
江田　え？　俺？
金沢　うん。なんか、なんていうか、［違うと思うんだよね。
江田　［は・は・え？　何が？
金沢　そういうなんか、明るくしてくれるのはありがたいんだけど、
江田　うん。
金沢　――迷惑でもあるっ［ていうか、
江田　［迷惑？　迷惑？
金沢　まあ、そう。うん。なんか俺に責任なすりつけようとしたのとかも＝
江田　いやいやいや
金沢　＝まあ、わかるんだけど、俺だって別に一緒にキャンプ行ってるし？　ハリー呼ばなかったわけだしね、実際。
江田　違う違う、なすりつけるとか［じゃなくて、
金沢　［いいんだけど、それは俺も責任があるからさ、わかる部分もあるんだけど、でも別にさ、俺がひとりで何かしたとかそういうわけじゃ［ないわけでしょ？
江田　［え・え・なになになに？　それはだからさっき、ええ？　謝ったじゃーん。
金沢　いやいやいや、そういう、（首を傾げ）なん／なんていうんだろうな、おちゃらけた感じにしないでいいよ、今。
江田　してないでしょ、別に＝
金沢　えー、そう？
江田　＝おちゃらけてないよ・まじめに話してんでしょ。
金沢　いや、じゃあ／あ、そう？＝
江田　＝うん。
金沢　――ならいいんだけど。
江田　え？　なに？　――だからそういう俺らがどうとかじゃなくてさ、猪俣とハリーの関係性をよくしないとしょうがないでしょ？＝
金沢　や・わかってるよ。
江田　＝だってあいつらの方が職場もいっしょなんだしさ＝
金沢　うん。
江田　＝全然俺らだったらまあ、最悪ね、最悪・絶交状態みたいになっちゃってもなんとかなるわけでしょ？　［それはそれでやっていけるっていうかさ、
金沢　［ん・ん・ん・ん？　だからなによ？
江田　だから、だから＝
金沢　＝うん。

江田　ふたりの関係性を悪くしないために俺らがあえて悪役を引き受けるっていうかさ＝
金沢　え・え、
江田　＝猪俣のせいになんないようにしてやんなくちゃ［いけないわけでしょう？
金沢　え・え・だったらさ、だったら、それは自分、え、というか＝
江田　＝なんだよ。
金沢　俺らが悪役とかいってるけど、さっき全然、――俺じゃん？
江田　は？
金沢　俺がなんか・ひとりでやったみたいな感じにしてたでしょ？
江田　★そういう言い方はしてないよ、
金沢　してたって
江田　★してないよ。
金沢　★してたでしょ全然？　え？　それをさっきだって、謝ったんじゃなかったの？
江田　だからそれは、――違うよ、俺は別に、俺らが悪者になるっていうのは別にいいと思ってるけど＝
金沢　うん。
江田　＝それをあらかじめ伝えてたわけじゃないからね。
金沢　ん・ん・ん？
江田　金沢がそういうんじゃ不満があるっていうんだったらそれはごめんね、［っていうことなわけじゃん、
金沢　［待て待て待て待て、おまえ、ちょっとすげえな。
江田　何が？
金沢　なんかこえーわ。
江田　なん、なに？
金沢　全然俺だけのせいにしてたじゃん？
江田　それはもう水掛け論でしょって。
金沢　違うだろ、
江田　★水掛け論だよそれは。
金沢　★実際してただろ、［俺だけのせいに！
江田　［いったとかいわないとか・わかんないだろ？　録音してるわけじゃあるまいし。
金沢　★え？　なに？　じゃあ、そういう意味で謝ったのさっき？
江田　当たり前じゃん。［そうだよ
金沢　［なんだよそれ。え？　じゃあ、いいよ。
江田　いいってなんだよ？
金沢　いいよ・いいよ。もうなんか返すよ、ごめんを。ごめん、リバースするよ。
江田　ごめん、リバースとかできるかよ。俺はもう渡しちゃったんだから「ごめん」をよ。
金沢　いや、もう、返すって。ごめんリバース。
江田　リバースリバース！　受け付けねえよ。ごめんリバースリバース！
金沢　じゃあ、リバースリバースリバース。

江田　リバースリバースリバース――。
猪俣　★ちょちょちょちょ、いいよ、わかんねーよ。「ごめんリバースリバースリバース」とかわかんねーよ、
一拍。
金沢　（猪俣に）［いや、だから、
江田　（猪俣に）［それはさあ、
猪俣　★ごめんごめんごめん。なん・なん・なんか俺がね、暗くなってるから、
金沢　いやいや猪俣のせいとかじゃなくて、これはもう江田の人格の問題だから、
江田　★（ひどく驚き）ええー？　なんで？　俺の人格の問題になっちゃうわけ？
金沢　☆んー。だから実際さ、お前も冷静に考えてヘンだろ。
江田　何が？　［何がヘンなんだよ？
猪俣　［いや、だからいいって。［［いいってだからもう。
金沢　［［まってまって、じゃあじゃあ、これだけは言わせてほしいんだけど、
猪俣　なになに？
金沢　んー。なんだ。ちょっと待って、整理するわ、うーんとね。
江田　なんだよ？

◎なだめる　2

と、そこへ斉藤、松本が入ってくる。
▽斉藤　☆いいからわかってる？　ちゃ・ちゃんと言えよ、お前ちゃんと。
▽松本　だから言いますよちゃんと。
▽斉藤　これホントマジなやつだからな？　マジにやんないと伝わんないからさ、
▽松本　わかってますって。さっきはちょっと急だっただけですよ。
ふたり、猪俣たちに気づき。
斉藤　あ・あのー、あ、すみませんちょっといいですか？
一拍。
江田　ああ、［あの、
金沢　［良くねえ。今ちょっと良くねえからステイで。
斉藤　［［ああ、はい。
松本　［［すみません。
江田　なんだよだから？

金沢　さっき江田ちゃんの言った通りだよ。だから、俺らは別にいいとしてさ、猪俣とハリーの関係性は壊したらダメなわけでしょ？＝
江田　＝そうだよ。
金沢　でも実際さ、ここまでにもいろいろあったわけだよ、こういうことにならないようにするためのなんだ、まじめになるきっかけというかさ＝
江田　＝いやいや、違うよ？　俺だって別にふざけてるわけじゃないよ一切、
金沢　★ふざけてるよ。ふざけてるでしょ？　ふざけてるよ、ごめん、俺も含め、お前も含め、ふざけていた＝
江田　お前って。
金沢　＝ごめん。それはそうだよ。だからハリーが怒っちゃってるわけだしさ、
江田　それは、あいつの受け取り方の問題もあるわけじゃん？
金沢　――なにななに？　どういう［こと？
江田　［だから、だから、それは確かに、こういう不愉快なあれだったのかもしれないけど、でも、人生なんだしさ、そういうことはそりゃいろいろとあるよ。
金沢　ええ？
江田　だから、そういうものをね、ど、どうやって処理していくのか、っていうハリーの側の、まあ、度量っていうか、大人になんなくちゃいけないっていう、［というか、本質的にはそこが一番の問題なわけでしょ？
金沢　［ははは。いやいや、え？　まあ、ええー。そうなっちゃうの？　やっぱすごいな江田っていうのは。
猪俣　ちょっと確かにね。
金沢　なあ、ちょっと、――ええ？
江田　なん・なんだよ？
猪俣　まあ、ちょっと普通にさ、普通に、
江田　★なにななに？
猪俣　★聞いて聞いて。――まあ、普通にさ、反省している部分はあるよ、俺たち。
金沢　うん。

一拍。

江田　わー？　なにそれ？　うわー。今のなに？　なんか、え？　ここに線引く？　反省している金沢・猪俣連合と、反省していない江田と？
猪俣　いや、そうじゃないけど。
江田　やー、びっくりだわ。ええ？　なんで？　あ、ええ？　俺をなに？　俺を悪者にするっていう話？　連合で？
金沢　いや、違うだろ全然＝
猪俣　＝連合ってなんだよ。

江田　だったら線を引くなよここに！　なんでそういう、「（口真似）反省している部分はあるよ、俺たち」、スッパーッ！　はい、線が引かれました！
金沢　なんかもう、疲れるなお前。
江田　★お前っていうな！　こういう時にそういう、「お前」っていうのはやめた方がいいよ。
金沢　わかったよ、悪かった。悪かったよ。
猪俣　ちょっと、待って待って、あー、（斉藤に）ごめんごめん、（江田・金沢に）ずっと待たせてるから、

◎なだめる　3

傍に立っていた斉藤・松本が話し出す。

斉藤　あ・あ・あ、いいですか？
松本　いや、なんだったらまた、出直しますけど＝
斉藤　＝僕らもどこで帰っていいかわかんなくて、
猪俣　そ・そうだよね、ごめんごめん。
松本　★ステイって言われてたから、
金沢　ああ、そうか、俺が言ったのかそれ、
松本　★ステイっていわれてんのに帰ったらそれはそれで問題になんのかな、とか思って。
金沢　★大丈夫大丈夫。オッケーオッケーオッケー。
松本　はい・はい、いや、すみません。
猪俣　それでごめん、なんだっけ？
斉藤　ああ、いやあの、別にそんな・大したことじゃないんですけど、あの、さっきはちょっとすみませんでした、ということで、［ご迷惑おかけしちゃいまして。
猪俣　［あー、あー、あー、あー。
金沢　まあ、ちょっとびっくりしたけどね、さっきは。
斉藤　（松本に）だからホラ、言えって。
松本　ああ、はい。（咳払いして）――ああ、あの。すみませんでした。

一拍。

猪俣　いえいえ。
金沢　なんかあれだよね。なんかあったんだよね。
松本　はい？
金沢　あーいや、なんか急に怒ってたから、［ね。
猪俣　［あー。
斉藤　ああ、や、まあ、ちょっと、

猪俣　聞くよ。
金沢　ん？

一拍。

猪俣　って、俺らが聞いてもしょうがないか（笑）
金沢　［違うか、違うか？
松本　ああ、いや、あの、
金沢　★あー、ごめんごめん＝
猪俣　いいよいいよ。
金沢　＝全然言わないでいいからね。
猪俣　なんか変なこといっちゃって、
斉藤　それじゃまあ、すみません、［失礼しまーす。
金沢　［はい。はーい。はーい。

松本、斉藤、帰りかける。

松本　ちょちょちょちょちょ、
斉藤　なになになに？
松本　ああ、いや、（金沢たちに）やっぱ思うんすけど、
金沢　［はいはい。
猪俣　［な、なんでしょう？
松本　いや、思うんすけど、（猪俣を指差して）許されないっすよ。
斉藤　★ちょっとお前なんだよ。
松本　（斉藤に）いやいやいや、マジでマジで、許されることじゃないすから、いや、確かに確かに、確かにさっきは俺の言い方はまずかった。まずかったです。それはすみませんでした。謝りますよ。すみません。（金沢たちに）すみませんでした。
斉藤　★うんうんうん。じゃあ、じゃあ、じゃあ、帰ろう。
松本　やめろやめろ、掴むな・掴むなよ。
斉藤　なん・なん・なんだよもう、お前さあ！
松本　掴むなよっ！　なんだよっ！
猪俣　★聞く聞く聞く。聞くよ、聞く。
金沢　ちょっ、落ち着こう。いったん落ち着こう。

一拍。

金沢　あーの、なんかさ、冷静にやろう。ね。冷静にさ。

猪俣　だってなんか、ね。却って第三者の方が聞きやすいこととかもあんじゃないかと思うし
　＝
金沢　そうそうそう。
猪俣　＝なん・なんかあったんだよな？　その、君の、なに、
斉藤　ああ、松本です。
猪俣　ああ、だから松本くん、の中で、ね、なんかあったんだよね、［許せないことが？
松本　［まあ、まあ、はい。そういうことばっかりですからね、世の中。
金沢　［ああ、
猪俣　［なんかいってたね、さっき＝
金沢　＝なんだっけ？
斉藤　ああ、恋人が実は結婚してたっていうやつですよね。
猪俣　そうそうそうそうそう。
金沢　（猪俣に）え・え、待って待って、いまこの話聞く？
猪俣　ちょっ、いったん、いったん整理しない俺らも？
金沢　整理ってさあ・いいけどそれは、
猪俣　（松本に）だから聞くよ、聞く。俺らもなんていうんだろう、ちょっといったんこう、
　落ち着きたいからさ、なに、こう、クリスマス休戦みたいな感じでさ。
松本　クリスマス休戦？　クリスマス？　クリスマス今なんか関係あるんですか？
猪俣　★ごめんごめん、深い意味はないんだけど、
斉藤　で、ですよね、ちょっと真に受けるんでこいつ。
松本　あ・またそうやってレッテルを――。
猪俣　★え、そんでなに？　どういう話なんだっけ？
金沢　ちょっ、ちょっ、ちょっといい？　ちょっといい？　いったんいい？

　金沢、近くの江田のところへ行って、

金沢　拗ねんなよ。
江田　いや、拗ねてねーし。
金沢　面倒くさいんだよお前。
江田　いやだから「お前」はやめようって！＝
金沢　あー、ごめんごめん。
江田　＝しかも面倒くさいって！　それどういう／
金沢　ごめんごめんごめん、それはごめん、［ホントごめん、ホントごめんね。
江田　［うんうんうん。いいけどいいけど。
金沢　まあ、いいや、いいからなん、なんていうんだろうな。落ち着こう。うん。
江田　いやいや、俺も、――悪かったよ。
金沢　お・おう。

金沢、江田、抱擁。

江田　あー、ちょっと、あの、――飲み物とってくるわ。みんなの。
金沢　あーあーあー＝
猪俣　＝それいいかもな＝
金沢　＝じゃあ、そうしようお願いするわ。
江田　うんうん。

江田、人数を確認して、

江田　（小声で）オッケ。

江田、退場。
場面転換。

【3】　夜。針谷サイド。

◎緩衝地帯1　針谷、河井、宇多川

宿のどこか。居間などの宿の中心部分では決してない場所。
針谷がいる。河井、登場。

宇多川　なんかまあ、この辺でしたら、
針谷　ありがとうございます。
宇多川　いえいえ。まあ、あの、俺が案内すんのもどうかって感じなんですけど、――うん。
（河井を見る）
河井　え、ああ、［なにか？
針谷　［ああ、そうなんですか？
宇多川　や・まあ、いいんですけど別に。

一拍。

宇多川　なんか、大変でしたね。
針谷　ああ、いや、お騒がせしちゃってなんか、［すみません
宇多川　［いやいや、全然いいんですけど、俺は。関係ないんで。

一拍。

針谷　もう長いんですか、ここ？
宇多川　ああ、俺ですか？　いや、というか、俺は別にここの人間てわけじゃないんで。
針谷　ああ、そうなんですか？＝
宇多川　はい。
針谷　＝ごめんなさいなんか・てっきり、え？　じゃあ、あの？（あなたはなにもの？）
宇多川　ああ、米屋なんですけど、あの、近所の＝
針谷　ああ、米屋さん。
宇多川　＝はい。しょっちゅう来てるんで、まあ、なんか半分従業員みたいな感じで、
針谷　ああ、いや、あんまり馴染んでるもんだから、
宇多川　＝まあまあ、そうですよね。なし崩し的にといいますか。
針谷　なし崩し的に
宇多川　はい。――というか、若いのあんまいないんでね、そんで入り浸るようになって。
針谷　ああ、そうなんですか？
宇多川　まあ、年寄りばっかりなんでね、ここらは。（河井に）ねえ。
河井　え？　ああ、まあ。

一拍。

針谷　ん？　ん？　（ふたりは）知り合い？
河井　や、まあ、ちょっと。
宇多川　　はい、まあ、ちょっと。
針谷　ふーん。
河井　や、まあ、違うんですよ、あのー、
針谷　うん。
河井　まあ・あの、園田さん、ていうまあ、さっきいた髭の人、いたじゃないですか？
針谷　ああ、はいはい。髭の。
河井　あの人になんか、ちょっとお世話になったっていうか、そういうあれで。
針谷　あ、なに？　来たことあるんだ？　なに、常連？
河井　いやいやいや、常連というか、あの、――なんていうか、まあ、うーん、――常連？
　みたいなものですかね。
宇多川　　［ふーん。
針谷　［ああ、そうなんだ。
河井　いやいや、あの＝
針谷　＝まあまあ、いいんだけどね、河井くんに任せてたしね、宿のことは。
河井　＝あー、いや。まあ、そうなんですけど。
針谷　うんうんうん。
河井　まあ、あの、そうなんですよ、そう、あのー、そうなんですよ＝
針谷　＝なになに？
河井　あのー、いや、そうなんですよ＝
針谷　＝なんだよ。
河井　――（自分を指して）元・従業員、みたいな？
針谷　あ、え？　ああ、え？　河井くんが？　ここの？
河井　まあ、はい。
針谷　あ・へー？

一拍。

針谷　あー、［そう？
宇多川　　［え・いいの、言っちゃって？
河井　や、なんか（宇多川が）言うから。
宇多川　　［ああ、俺が？　ええ、そう？
針谷　［ああ、え・なに？　じゃあふたりは元々？
宇多川　ああ、まあ。

河井　はい。その頃の知り合いで。まあ、
針谷　あ、そうなんだ。ああ、そう？
宇多川　はい。お世話になってます。
河井　★やめてくださいよ。
宇多川　お久しぶりっす。ちーすちーす。
河井　★いやいや・違うんですよあの、なんかちょっと、黙っててもらってたっていうか、なんかちょっと、はい。常連みたいな感じの体で、やってもらおうと思って。
針谷　なんで（笑）
河井　いやいやいや、まあ、なんか、恥ずかしいじゃないですか。
針谷　えー、そう？　別にいいと思うけどね。あー。なん／なに？　バイト先っていうか？
河井　ま・ま・ま・ま。

間。

針谷　いろいろあるんだね。
河井　え？　ああ、ハハ。
宇多川　（河井に）元気でやってんの？
河井　んー、まあ、ご覧の通りといいますか。
宇多川　でも、すごいじゃん。ちゃんと就職して。
河井　いやいや、そんな別に。
宇多川　（針谷に）え・あのあの＝
針谷　はい？
宇多川　＝こいつちゃんとやってんすか？
河井　やってますよ。
宇多川　寝坊とかしてないっすか？
河井　してないっす。
宇多川　うんことか漏らしてないっすか？
針谷　［うんこ？
河井　［漏らしてないっす。勘弁してくださいよ。
針谷　ああ、全然全然。ちゃんとやってますよ。
宇多川　へー。えらいじゃん。
河井　もういいから。うるせえな。
針谷　あ、でも、じゃあなんか、ヘンな感じだったでしょ、さっき？
河井　え・え？
針谷　いや、せっかくの再会なのに、［ねえ？
宇多川　［そうなんですよ。なんか黙ってろって言われてたから。もう秘密主義で。
針谷　はいはいはい。
宇多川　（河井に）なに、斉藤さんと連絡取ってんの？

河井　いや、取ってないですよ。園田さんに言って、
宇多川　ああ、そっか。そんで、ああ、そっから斉藤さんに。
河井　え、なんすか？　斉藤さんなんか言ってました？
宇多川　や、別に。なんか、河井くん来るよ、っていうのだけ聞いてて。
河井　あー。

一拍。

河井　や、まあ、別に隠すとかじゃなかったんですけど、なんか出来たら、常連さんです、みたいな体でやらせてもらえないかって言ってて、
宇多川　あ、園田さんに？
河井　そうですそうです。

一拍。

宇多川　というか、じゃあ、来なきゃ良かったのに。
河井　え？
宇多川　いやいや、そんなわざわざ、会社の人と。
河井　や、まあ、そうも思ったんですけど、俺も＝
宇多川　うん。
河井　＝え、でもなんか、あれなんですよね、あのー、
宇多川　え・え？
河井　いやなんか、閉店ていうか、
宇多川　ああ、ああ、ああ。そうそう。ああ、なに？　聞いてる？
河井　まあ、なんか連絡した時にちょっと。
宇多川　そうそうそう。なんかそうらしいんだよ。
河井　うん。ね。

と、そこへ園田登場。

◎緩衝地帯２　園田、針谷、宇多川、河井

園田　――どうもどうも。
針谷　★ああ、はい・はい？
園田　そろそろあの、――お食事はどうしましょうかね？
針谷　ああ、
園田　なんか、ね。結構いい時間になっちゃいましたけど、
針谷　そうですよね。

園田　ええ、まあ、あんまり遅くなっちゃってもいけないかな、と思いまして、
針谷　はいはいはい。ああ、

一拍。

針谷　ま・ま・ま、それはそうですよね。というか、すみませんでした。
園田　いえいえいえ、いいんですけどね、こちらは。（宇多川に）いつまで居るんだよ、お前。
宇多川　えー、なんで？　手伝ってたんじゃないですか？
園田　早く帰れよ＝
宇多川　いやいやいや、
園田　＝俺が怒られるんだから親父さんに。
宇多川　帰りますよ、時が来たら！　時が来たら！

園田、針谷の傍に移動して、

園田　（座っても）いいですか、ちょっと？
針谷　ああ、もうもうもう。

園田、座る。
間。
園田、空を見て、

園田　風が結構ね。
針谷　そうっすねえ。
園田　ね。大変ですね。え、こっからまだあるんですもんね？
針谷　はい。まあ、今日はいいんですけどねえ。いやあ、逸れないかなあ、なんて思ってたんですけど、
園田　ダメでしたね。
針谷　え・え、でかいんですか、結構？
園田　まあ、非常に強い台風とかって言ってましたけど、
針谷　はいはいはい。
園田　なんか、すごいゆっくり、自転車ぐらいのペースでノロノロ進んでるみたいで。
針谷　（河井に）お腹空いたよね？
河井　ああ、そう、っすね、まあ――。
針谷　ごめんね・なんか。
河井　いやいやいや。いいんですけど・そんな。
園田　まあ、あの、もう準備は出来てますんで。

針谷　ああ、そうですよね、そりゃ。
園田　ええ、ええ。

園田、食事の場所に移動するよう促してみるが、針谷、動かない。

園田　なんでしたら別々に召し上がるような形で？　お出しすることも出来るんですけど、
針谷　いやいやいや、まあ、なんか、そういうのもなんか、ねえ、
園田　まあ、そうですね・できればご一緒に＝
針谷　＝ですよね、そりゃ。
園田　ええ、せっかくですからね。

間。

園田　さっきのあの、ああいうやりとりがあったでしょ？＝
針谷　え？　ああ、
園田　＝ああいうの見てると胃がキリキリしてくるんですよ。
針谷　ああ、本当にさっきは、すい／申し訳ありませんでした。［失礼いたしました＝
園田　［いやいやいやいや、いいんです・いいんです。
針谷　＝ホント、ホントにもう自分もあんな風にするつもりはなかったんですけど、
園田　★違う違う、責めるみたいなことをいいたいわけじゃなくて。
針谷　いやでも、あれはどう考えても来てすぐにする話じゃなかったですし、というより、人様にお見せするような態度じゃない。
園田　いいんですいいんです、別にそんな、あなたを責めているわけじゃなくて＝
針谷　いやでも、
園田　＝なんていうか、もう他人事（ひとごと）じゃないっていうんですかね。自分たちのことのようで、という話で。胃が痛いっていうのはそう、そういう意味なんです。はい。

間。

園田　（河井に）どうですか、調子は。
河井　はい、あー、元気にやってます。
園田　そうですか。
河井　園田さんにおかれましては――
園田　うん？
河井　ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
園田　――手紙じゃねんだから（笑）
宇多川　ははは。

園田　（針谷に気を遣って）ああ、いやいや、すみません。
宇多川　大丈夫です、さっきいいましたんで。
園田　え？　ああ、そう？　いったの？
宇多川　［はい。
針谷　［ええ、なんか、
園田　ああ、（針谷に）こりゃどうも、すみません。
針谷　いえいえいえ。
園田　まあまあ、そんなわけになってまして。なあんだ知ってたんですね。
針谷　ええ。はい。
園田　（河井に）え・どうなんだよそれで？　元気にやってんのか？　まあ、元気そうだな。
河井　ああ、お陰様で。
園田　そうかそうか。まあ、元気なら、いいか。え・どうなんだよ仕事は？
河井　仕事は、まあ、
宇多川　ちゃんとやってるって。うんこ漏らしてないらしいですよ。
河井　★だから漏らさねーよ。
園田　ははは。そうかそうか。漏らしてないならまあ、まずはいいか。

間。

河井　（針谷に）いや、あの、別に昔はすごい漏らしてたとか、そういうんじゃないですから
ね？　一回だけ、一回だけそういう事件があったっていうだけの話で

針谷、「もうそれ以上言うな」というような仕草。

間。

針谷　困ったもんですよねえ、僕も――。
園田　はい？
針谷　こんだけ生きてきてこの程度の人間なんですから。
園田　いや、そんなこと。

間。

針谷　なんとかこう、ね。どうにか格好だけついてるみたいな感じにしてますけど、まあ、
ね。仕事だけは続けられてますから・それはいいんですけど、
園田　ええ、ええ。
針谷　――もうちょっとなんか、こう、ね。――もう、いい歳ですからねえ（笑）

間。

宇多川　でも、わかりますよ。
園田　――え？
宇多川　俺もあの、スポーツニュースとか見てると、うわーって思う時ありますもん。
針谷　――はあ。
河井　スポーツニュース？
宇多川　あのホラ、なになにの日本代表です、とかって人たちは、なんていうんですか、レスリングでもカーリングでも、ものすごくしっかりしてるじゃないですか？
針谷　確かに確かに。
宇多川　それでまだ十代だっていうんだから、いや、俺はいったい今まで何をしてきたんだろうっていう、イヤあな気持ちになりますもん。
園田　なにいってんだ、若造が。――そうでもねえか。
針谷　ははは。

間。

園田　ここ、あの、クモの巣っていうんですけどね、この宿。
針谷　はい。ああ、なんか変わったお名前で――。
園田　あ・そうですか？　みんなに趣味が悪いっていわれるんですけど、
針谷　いやいや、いいと思いますよ。僕は全然。

一拍。

園田　どっか、避難できる場所が作りたかったんですよ。
針谷　避難？
園田　うん。世の中には、まあ、なんですか。俺みたいやつも含め、こういうホラ、（河井と宇多川を指し）こいつらみたいなやつも含め、――融通の効かないバカがたくさんいますから。
針谷　［ははは。
宇多川　［ちょっと一緒にしないでくださいよ。
河井　似たようなもんでしょ。
宇多川　［ええー。
園田　［それでも、そんなに簡単に人間、自分の居場所を抜けられるもんじゃないですからね。捨てられるもんじゃない。
針谷　ええ、まあ、そうですね。

間。

園田　何だ、うちにいるのはその、全然エリートみたいな人材じゃないんでね。
針谷　はあ、はあ。
園田　まあ、決して器用な連中じゃないんですけど、まあ、なんとかね。なんとかなんないもんかな、と思いまして。そういうことを考えてまして。
針谷　ああ――。でも、みなさんよく動いてらっしゃるんじゃないですか？
園田　フフフ。そう見えてんなら幸いですけど。
針谷　そんなそんな。

一拍。

園田　さっきのあれ、あの、あいつ松本っていうんですけどね＝
針谷　ええ。
園田　＝あのホラ、さっき怒鳴ってた、
針谷　はいはいはい。
園田　あいつにしたっていろいろと問題を抱えてまして、
針谷　はあ。
園田　あっちともこっちとも縁が切れちまって、家族とも何かっていやあ問題起こして＝
針谷　＝ああ・そうなんですか。
園田　まあ、それはあいつがゆくゆく解決していかなきゃいけない問題として、――でもまあ、世の中すぐに解決できることばっかりじゃないでしょう？
針谷　そう、ですねえ。

一拍。

園田　難しいことはね、じっくり時間をかけて解決してきゃいいんでしょうけど――。まあ、なかなかね、せっかちな世の中ですから。
針谷　やあ、ホントに――。

間。

園田　いいんですよ。いい時もあれば悪い時もある。
針谷　まあ、悪い時ばっかりじゃいけないなあ、とは思うんですけどね。

間。

園田　まじめすぎるというかね、融通が効かないというか、――ねえ？
針谷　ああ、
園田　いや、あなたのこと何も知らないでいうことじゃないですけど、

針谷　いえいえ、
園田　そういうとこがあんのかもしれないですねえ。
針谷　や・もう、融通が利かないっていうのは幼稚園のころから書かれてましたから、
園田　幼稚園？　［幼稚園？
針谷　［はい、連絡帳に。それは／そんな書き方する先生もどうかと思うんですけど、「ときどき頑固で融通の利かないことがあります」って。
園田　フフ。それじゃ筋金入りだ（笑）　幼稚園児ってだって、融通の利かない幼稚園児って、「みんなでお遊戯しましょうねえ」っていってんのに、「俺は踊らん」みたいな？　ハハハハ。

園田、ちょっと笑いすぎるぐらい笑う。

河井　――園田さん。
園田　ああ、いや、
針谷　僕もあれですね、仕事辞めたら避難させてもらわないとですね？　クモの巣で（笑）
河井　ええ？（笑）
園田　んー、いつでも大歓迎と言いたいところなんですけどね、来月で閉めちゃうんで。
針谷　え？　ああ、ここですか？
園田　そうそう。来月いっぱい。
針谷　ええ？　せっかくこんな――／いいところなのに。
園田　まあ、いいところだから残るってわけでもありませんから。
針谷　ああ、
園田　（「お金」を示すジェスチャー）こっちの問題がありますから。
針谷　ああ、そういう――。

間。

針谷　そうですかあ。
園田　そんなまあ、いじけてるわけじゃないんですけどね、でもまあ、負けは負け。

間。

針谷　あー、あの、ありがとうございました。なんか、いろいろとお話してくださって。
園田　いやいや、
針谷　大分あの、落ち着きました。
園田　いや、なんかこっちが好き勝手話してるだけになっちゃってましたけど、
針谷　いやいや、そんなことないです。助かりました。
園田　ああ、そんなら良かったんですけど。

園田、立ち上がり。

園田　行きましょう。みなさん運動してきたんだから、食べないと。

針谷　ああ、はい。そうですね。

みな、退場。

場面転換。

◎なだめる　4

金沢、猪俣、江田がいる。そして、斉藤、松本がいて、人数分の飲み物がある。

猪俣　でも珍しいよね。
金沢　ええ？　何が？
猪俣　や・大体そういうさ、なに？　不倫みたいなことってなんか、男の方が結婚しててさ＝
江田　＝ああ。確かに確かに。
金沢　これは逆のパターンていうか？
猪俣　［そうそうそう。
斉藤　［や・まあ、そこがねえー、難しいとこなんですよ。
猪俣　あ、そうなの？
金沢　難しいところなんだ。
斉藤　（松本に）ああ、もうぶっちゃけた話でいいよな？
松本　まあ、いいですけど。
斉藤　うん。や・だからまあ、こいつ付き合ってないんですよ、その女と。

一拍。

江田　［ん？　ん？　ん？
金沢　［え？　なになに？
猪俣　［どうゆうこと・どうゆうこと？
斉藤　いや、だからこいつはなんか、その付き合ってた子、ああ、ナツキちゃん、ていうんですけどね。
松本　★いや、名前はちょっと。
斉藤　いいだろ別に。
松本　いや、名前は、
斉藤　――じゃまあ、仮にNちゃん、ということにして、こいつ、そのNちゃんと確かにまあ、ちょっとだけ付き合ってたらしいんですけど、（松本に）どんぐらいだっけ？　半年とか？
松本　まあ、向こうが別れるとか言い出したのはそんぐらいですけど、
斉藤　★そうなんですよ。だから半年ぐらいつきあって、そのあと、ちゃんと別れて＝
松本　＝いや、ちゃんとではないです。全然、［［ちゃんとでは、
斉藤　［［わかったわかった、一応別れて＝
江田　＝別れてー、
斉藤　そんで、そっからだから、二年半とか経ったあとなんですよ、実は結婚してました、ってなったのは。
江田　［ああ、

金沢　［あ、そういう話？
猪俣　え・じゃあさ、じゃあさ、
斉藤　はい。
猪俣　――そのなに、Ｎちゃんがあのー、そっちの、
斉藤　松本っす。
猪俣　松本くんと付き合ってましたー、そんで別れましたー、
斉藤　はい。
猪俣　そんでそのあとで今の旦那さんと付き合いましたー、結婚しましたー、ってそういう、
――流れってこと？
松本　まあ、一応、そういうことにはなりますけど。

間。

江田　え？　じゃあ、あのー、んんー、なんだ？
金沢　何を怒っているの、松本くんは？
江田　うんうん。
斉藤　謎っす。［マジ謎っす。
猪俣　［え・え・じゃあ別によくない？　何の問題もない感じするんだけど。
斉藤　★そうなんすよ！　普通そう思うじゃないですか？
松本　★いや、それは伝え方がありますよ、今のは＝
斉藤　なになに？
松本　＝いや、確かに別れたのかもしれない。向こうはそういう風にいってました。まあ、俺は全然・納得してなかったんですけどね。
金沢　あ、でも向こうからちゃんと言ってきたわけね？　別れたいですよ、って？
松本　でも僕は断りましたけどね。別れたくないよ、って。
金沢　［ああ
猪俣　［それでそれで？
松本　だからまあ、そっからは話し合いというか、連絡は取りますよね、普通に？　それで普通に何年か、そういうだからやりとりは続けてて、だからまあ、その間は僕らの間にもなんらか、関係があるわけじゃないですか？
猪俣　うんうんうん
松本　そしたらなんか、いきなり電話かかってきて。
金沢　電話？
松本　だからその、夫とか言う人から電話かかってきて。
江田　（独り言のように）ああ、ストレートな感じだ。
金沢　なるほどね。

松本　いや、そんでこっちはこっちでわけわかんないのに、向こうがまずキレてて、初っ端からなんか、「ふざけんな」みたいなこととかいっぱい言われて、そんでなんか、――「謝れ」みたいな話になって、なんだったら「金出せ」とかそんなことまで言われて、
猪俣　んー。まあまあ、
金沢　向こうの立場からしたらねえ、
江田　［うんうん。
猪俣　［ありえない話ではない。
松本　★マジっすか？　え、いや、ありえなくないっすか？　だって、え、騙されてるのこっちじゃないですか？
金沢　まあまあ、そうかもしれないんだけど、
猪俣　でもホラ、そっちの旦那さんからしたらさ、だって、ねえ？　守ろうというかさ／
松本　★あとから入ってきたんですよ、向こうが？　俺とその子との関係に。
猪俣　［うーん。
金沢　［あとから入ってきた――。
斉藤　で、こいつがずっとそれ言ってるんですよ。もうだって、かなり前の話なんですけど、
松本　★いや、問題はそのあとですよ。電話かかってきたあと＝
猪俣　はあはあ。
松本　＝いや、そんで、俺もいきなり電話かかってきてわけわかんなかったし、というか一回ちゃんと話したいじゃないですかその子と？　どういうことなの、これは？　って。
金沢　［まあねまあね。
猪俣　［Nちゃんとね、
松本　だけどもうそっからは一切連絡取れなくなっちゃって、電話とか全部つながらなくなっちゃって。
金沢　うーん。
松本　いや、普通にパニくるじゃないですか？　え、なんでなんで？　ていうのがもうずっとグルグルグルグルしてて、それでちゃんと説明してほしいのに何も説明はないし、すっぱり諦めてくれー、とかそういう一言でもあれば、また全然違うじゃないですか？　でも、その電話来てからは、一切その子とは一切、話ができてないんですよ。――え、それってちょっと、――おかしくないですか？＝
江田　ま・でもさ、
松本　＝人として最後、そういうところはちゃんと一回話をするべきというか、そういうことがあるじゃないですか？
斉藤　オッケーオッケー。まあ、まあ、そういうことなんですよ。だからまあ、さっきみたいな話題になるとこいつもちょっと興奮しちゃって。
江田　だから・それこそあのー、ドローン的な視点からするとさ＝
猪俣　＝出た。
金沢　（猪俣に）好きな。
江田　や・まあ、誰も悪くないというか、［そういう風にも思えるんだけど、

松本　［はあ？　なんでっすか？　誰も悪くないわけないでしょ？　そんなわけないでしょ、それはないんじゃないですか？
江田　いや、ある意味、［ある意味ね、
猪俣　［え・え・え、じゃあ松本くんはなんだ、あのー、なに？　誰が悪いと思ってるの？

間。

松本　まあ、第一にはその男ですよね。夫とかいうやつですよ。
金沢　それはさ＝
猪俣　＝いや、まあまあ。
松本　で、第二には、や、順番とかないか。両方同じぐらいですけど、その子も悪いですよね。
猪俣　うーん。それで？
松本　え？　――それでってだから、――それだけですよ。
猪俣　ああ、え？　きみ・君は？
松本　は？　え、なんすか、今の話聞いてました？　なんで俺が悪いことになるんですか？
猪俣　うーん。まあ、なんだ、
金沢　わる・悪くはないのかもしれないんだけど。
江田　そうそう。んー。なんだろうね。
松本　――なんすか。
江田　でもホラ、一回ゴネてるわけじゃない、君も？
松本　いやいや、ゴネ／ゴネたってわけじゃないですよ別に。だってそんな／え、でも・それこそよくある話じゃないですか？＝
江田　んん？
松本　＝付き合ってて、どっちかが別れようって言ってるのに、もう片方が別れたくないとか、――そこら中にある話じゃないですか？
江田　［まあ、そうだけど、
金沢　［あるにはあるんだけどさ、
斉藤　いやでも、ちょっと可哀想だな、っていうのもあるんですよ。なんか、話し合いがしたいっていうのは、まあ、――わからなくも無いじゃないですか？　それだけ聞くと＝
猪俣　＝それだけ聞くとね、
斉藤　はい。――や・俺とかも実際、なんであれきっちり話はつけたいと思ってる人間なんで＝
猪俣　んー。そうか。
斉藤　＝だからまあ、こいつが言ってることもわかる部分はあるんですよ。ただ！　ただ、――もう、しょうがないじゃないですか？　こんなの。
猪俣　しょうがない、［しょうがない。
金沢　［もうこれはね、こじれちゃってるから。

江田　そうなっちゃったら連絡は取れないよ、普通。
松本　ええ？　普通？　普通ですかそれ？　それはだって／
江田　いや、じゃあ、わかった。わかったよ。
金沢　え、え、じゃあ、松本くんはさ、
松本　はい。
金沢　どうしてもらったら満足なの？＝
猪俣　＝おお、いい質問＝
斉藤　＝いや、そういうのは意味ないっす。こいつ満足とかないっす。
松本　（斉藤に）［なんでですか？
猪俣　［あー、そうなの？
斉藤　いや、俺も長いこと話しててわかってきたんですけど、結局、意味ないんすよ、すべて。どうせすぐ忘れて、一番パニクってたときの状態に戻ってくるんで、
金沢　ああ、ああ、そうなんだ。
斉藤　はい。それはもう絶対。
松本　絶対ってことないじゃ［ないですか、そんな、
猪俣　［いやいやいや、聞くだけ聞いてみようよ、
金沢　え、え、どうなの？　どうしてもらったら満足なの？

間。

松本　まあ、なんというか最初の段階で、ちゃんと話をしたかったな、っていう。なんかいきなりその夫とかいうやつに怒られたときもそうですし、まあ、いきなり連絡つかなくなるとかもそうですけど、それじゃなんか、――そういうやつみたいじゃないですか、俺が。
金沢　んー、ん？　そういうやつって？
松本　そういう、連絡取っちゃいけないやつみたいじゃないですか？　まあ、実際そうなのかもしれないですよ、俺は。そういう、まあ、なんていうか、――ヤバいやつなのかもしれない。でも、ちゃんと話が出来たときもあったわけじゃないですか？　それがある日突然、ヤバい奴扱いになっちゃう、っていうそういうことでいいのかな、って。そういう、なんか、――話をしてくれる関係があったんじゃないのかなって。
猪俣　うーん。まあ、そうかあ。
松本　はい。そういう、なんか、
猪俣　いや、わかるわかる、わかるよ。
松本　はい。
猪俣　だから、しんどかったんだよな。何も無くて、そういうのが。
松本　や・まあ、しんどかったっていうか、まあ、そういう／うん。

間。
園田、登場。

園田　（全体に）やあ、どうもどうもお待たせしてます。（松本・斉藤に）おう、じゃあ、もう、ご用意しちゃおう、お食事。
松本　え、［ああ。
斉藤　［ああ、――はい！

▼音響　曲in　晩餐のテーマ

場面転換。

【4】　深夜

◎晩餐　1

食事の準備。
配膳の間に音楽。
配膳が終わる。

河井　園田さんあの、こんな時になんなんですけど、
園田　なになに？
河井　いやあの、クモの巣がなんか、閉まるって聞いたんで。
園田　ああ、なに？　ああ、俺に？
河井　はい。お世話になりましたんで。
園田　いや、なんか、えー？　いやいやいや、悪いね。え、え、開けていいの？
河井　はい。もう今、カブ、はい。

園田、プレゼントの箱を開けると王冠。

園田　ああー。

松本、園田に見えない角度で激しく落胆している。

河井　いや、なんか、前に欲しがってたじゃないですか、と思って。
園田　おおー。そうかそうか。あー、こりゃあ立派だ。
河井　そうっすか？　や、そんな大したもんじゃないんですけど。
園田　いやいや、立派だよこれは。
松本　お前、空気読めよ。
河井　え？　悪かったですか？
松本　王冠はダメだろ、だって。
河井　いや、いいじゃないですか、なにプレゼントしたって。
松本　いやいやいや、ダメでしょこれは。これだけは。
河井　な、どうしてですか？
松本　いや、だって王冠はだって斉藤さんが、
斉藤　★いやいやいや、違う・違う・違う。なんでもないって。
園田　いいよいいよ、もう、ありがとう、ありがとう。うれしいよ。
河井　あ、そうすか？
園田　もう、うれしい。気持ちだからな、こういうものは。
河井　ああ、じゃあ、よかったっす。

園田　被る、被るよ。じゃあ、な。そうしよう。

園田、以後、王冠を被っている。

河井　お似合いです。

園田、誇らしげな様子。

落ち込む松本をなぜか斉藤が慰めている。

◎晩餐　2

長い長い沈黙。

沈黙の中での食事。

やがてその沈黙を破って、猪俣。

猪俣　ハリー。――ハリー、ちょっといい？

間。

針谷　はい。

猪俣　あのー、いや、悪かった。

間。

針谷　何が？

猪俣　え、何がって［まあ、

金沢　［だから、結果としてなんか、そういうなんていうか、ハリーに嫌な思いをさせちゃったなっていうのもあるし、

針谷　なに、嫌な思いって？

金沢　だからそういう、騙されてたじゃないけど、そういうのもあるし、

針谷　うん。

金沢　あとはだから、

猪俣　まあ、黙ってたっていうかね、

金沢　そうそう、そう。

江田　ＡかつＢっていう。――ことかな。

一拍。

猪俣　ホントごめん。申し訳なかった。
金沢　いや、俺もそれは悪かった。
江田　まあ、だから――そうだね。なんか、全体的に。そういう感じ。

一拍。

江田　あ、これダメな感じだ？
金沢　いやいやいや、お前・［お前ちょっとマジで。
江田　［なになになに？
金沢　うん。だからさっき、うん。
江田　★ああ、オッケーオッケー。いやいや、俺も全然。そういう、まじめだから。
針谷　なに、なんなの？　なに真面目って？
江田　え、だからまあ、まじめ／真剣に、そういう申し訳ないという気持ちがあるというか、

一拍。

針谷　――（肯定の意味で）はあ。
猪俣　あとはなんだろう、そういうなんだ、伝え方というか、まあ、ね。ハリーがそういう、なんだ、嫌な思いをするかもしれないなあ、っていうのを、んー。想像力に欠けていたというか＝
金沢　＝そのあたりはもうちょっと、ね、うん、ハイ・配慮が足りなかったなっていうのは＝
猪俣　＝それはホントにそう。
金沢　まあ、なんか伝え方がね、もうちょっとしっかりすればよかったな、って。
猪俣　なんか言い訳みたいに聞こえちゃったらそれは、そういうんじゃないんだけど＝
針谷　なになに？
猪俣　＝そういう、言い訳するつもりはないんだけど、まあ、できることでもないし、実際、実際にそのすべてが勘違いとか、そういうことではないから＝
針谷　＝うん、だからなに？
猪俣　だからまあ、実際そのミライちゃんからは何も聞いていなかったし、これはホントに、ハリーのこととかは何も聞いてなかったから、

一拍。

針谷　ふーん。
猪俣　いやいや、それはホントに。本当に聞いてなかったんだけど、
針谷　まあでもそれをさ、
猪俣　うん、なに。
針谷　何を根拠に信じればいいわけ、僕は？

猪俣　うーん。な、何を根拠に？
針谷　いや、だからさ、えーとなに、そういう人なわけでしょあなたは？　というか、そういう人たちなわけじゃない、みなさんは？
江田　★いやいやいや、そういう言い方したらさ、［ダメだよ。
針谷　［え、でもそうじゃない実際？　なんかみなさんで黙っていたわけでしょうだって？
江田　それもだから、そんなにはっきりなんか、秘密にしようとかそういうんじゃなくて＝
金沢　＝そうそうそう、
江田　（金沢に）ねえ？　（針谷に）だから、全然そういう、打ち合わせとかないし、だってそうでしょ、もし仮にさ、なんかそういう打ち合わせみたいなのが、こんな、ねえ。
金沢　そうそうそう。だから、ね。全然、まあ、そのゆるさが悪かったとも思うんだけど、うーん。そんなハリーに秘密にしようみたいなことじゃなかったんだよ、ね。
江田　そうそう。みんなそんな深く考えてなかったっていうか。これ、誤解しないでね、だからそこは、だから別にいいじゃんとか、そういう話じゃなくて、悪かったなって反省してしてるって話なんだけど、うーんその、――大したことじゃなかった。隠すほどの。うん。

一拍。

金沢　まあ、悪い意味じゃなくてね。
江田　そうそうそう。悪い意味じゃない。つ、常にいい意味しかないから。
針谷　（ムッとして）なにいってんの？
江田　やあ、そう――。こういうとこだよね。こういうとこなんだよ。
針谷　なにが？
江田　いやいやいや、俺もちょっと、反省しようと思って。すげえ嫌われちゃってるから。
針谷　は、誰が？
江田　いや、俺が俺が。このだから、こいつらにね。
金沢　［いや別に嫌ってるとかじゃないけど、
猪俣　［そういうんじゃないよ。
江田　★いいのいいのいいの、そういう気休めはいいんだよ。もう、スッパーだからね。気づいたら裸の王様みたいになってましたっていう。
針谷　なに、スッパーって？
金沢　［いや、そこは流していいから。
猪俣　［うんうん。
江田　まあ、だから、線が引かれるときの音？　スッパー。

一拍。

江田　すっぱー。

一拍。

江田　［すっ
針谷　［え、ふざけてるよね？
金沢　★いや、ごめんごめんごめん、［全然そういうんじゃないんだよね。
江田　（真剣に）ふざけてねえよ。まじめだよ。俺なりにすげえこれはホント。考えたから。
針谷　ごめん、なんだっけ？　なんかよくわかんなくなってきた。
猪俣　あーいや、だから、ごめんなさい、っていう。うん。
針谷　うん。
猪俣　まあ、だからそもそもキャンプの時にまあ、ハリーが帰ったあとで俺らだけで行っちゃったのがまずおかしかったし、
針谷　うん。
猪俣　それでまあ、行ったら行ったで、まあ、呼べばよかったし、ハリーをね。
針谷　うん。
金沢　まあ、だからラフティングとかもそんな大した理由じゃなかったな、っていう。
江田　そうそうそう。それはね。ラフティングは余計な話だった。
猪俣　それでまあ、だから、そういうことになったらなったで、まあ、正直それは、ハリーにはちょっといいづらかったっていうのがあったけど、まあ、それは、ミライちゃんとどうとかは知らなかったけど、そもそもなんで俺がミライちゃんと知り合ってんだっていったらそれはまあ、キャンプの時の話になるわけだし、――その話でいったらまあ、言いづらかったな、っていうのはあったから、
針谷　それがなにだから？　ごめんちょっと長くて。
猪俣　いや、だから、申し訳なかったなって。
針谷　うん。――え、謝れば？
猪俣　いや、謝ってんじゃん。
針谷　いやいやいや、申し訳なかったなって、そういう客観的な事実の報告とかじゃなくて。
猪俣　いやだから、申し訳ありませんでした。
金沢　俺もだから、ホント、すみませんでした。本当に。
江田　ね。そういう。うん。ごめんね、だから。――や・なんかあんま固い感じでいっちゃうと却って本音にならないっていうか、そういうのイヤだから、俺はちょっと崩した感じになっちゃうけど、まあ、――ごめん。ごめんね。ていう。

間。

針谷　ごめんで済んだらなんでも便利だよね。嘘つき放題、やりたい放題。騙し放題。そんでバレたらごめんて言えば済むんだったら、ね、ホント便利な世の中だよ。
金沢　いや、そんな風には思ってないよ。

針谷　どう思ったかどうかなんてどうでもいいんだよ。問題は、君たちがどう振る舞ったかでしょう？　殺人はいけないことだなあ、とか思いながら、人殺ししてたら意味ないわけだよ。動機とかじゃなくて、実際どう行動したかでしょ、大切なのは。

猪俣　――え、じゃあさ・じゃあさ、

針谷　なに？

猪俣　え、なに、どうしたらいいの俺は？

金沢　ああ、そうだ、ね。

江田　なんかホラ、ハリーの方から条件というかさ、こうしてほしいみたいなのを出してもらったら、俺たちそれに従うし、

金沢　うんうん。そうだね。

江田　もう一応、なに、悪いとは思ってるし、ね？　それは別に変わらないんだけど、まあ、それだけだと、あのー、なんだ、ハリーがすっきりしない部分もあるみたいだから、――そうそうそう。

間。

針谷　え、君たちは本当にさ、もう少し考えてからものを言ったらどう？

江田　え、なにが？

針谷　あのさあ、――はあ。もう疲れるわ。

金沢　え、なになに？

針谷　いや、僕が何かを言ってね、今、君たちに聞かれてさ、「どうしたらいいの？」とか聞かれて、それで、それに答えて僕が何かを言ったとしようよ。メシ奢ってくれでも、坊主にしろでもなんでもいいわ、なんか言ったとしようよ。それでまあ、君たちがその僕の言葉通りに従いました、動きました、と。――で？　そんなの意味ある？

金沢　いや、え、あるんじゃないの［だから、そういう

針谷　［無いよ。無い。そんなことになんの意味もない。

江田　だからハリーにとってなんか、意味があるようなことを言ってくれたらいいんじゃないの？

金沢　［そうそうそう。

針谷　［何をしたとしたってね、どんな厳しい命令に君たちが従ってくれたところで、そこにはさ、僕の命令に付き合わされた、という事実が残るだけでしょう？　本当に言われた通りにするっていうのなら僕の言いたいことは一つだよ。たった一つのこと。

金沢　なに？

針谷　死ね。

金沢　いや、――えー？

江田　それはもう、滅茶苦茶じゃないですか。

針谷　だから、言わないよ、そんなこと。そんな要求を出すつもりは最初から無いっていってるの。なんの要求もないよ、何もない、僕からは。だから聞かないで。

江田　そういう極端なやつじゃなくてさ、関係性をだから、修復しようとしているわけでしょ？
金沢　確かにそれはちょっと、極端だよ。
針谷　いや、だからたとえだよ。極端にした方がわかりやすいからね、だから、違う。君たちだって命令に従うつもりはないでしょ、って。
江田　［んー、いや、
金沢　［そんなことないって。
針谷　それでいいよ全然。だからさ、君たちが本当に反省してますよ、というんだったらね、「何をしたらいい？」とか聞くことが、もうものすごく安易だと思うわけ。そんなさ、君たちが許される方法について、なんで僕が考えて答えを出さなきゃいけないの？　それを考えることも含めて謝罪なんじゃないの？

間。

金沢　確かにまあ、そうだね。うん。
猪俣　――うん。まあ。うん。
江田　（少し拗ねて）いや、まあ、ただ、そういう言い方されるともう、ね。こっちとしてもなんか手詰まり感やべえんだけどね、っていう。

江田、振り向くと猪俣と金沢と目が合う。

江田　（態度を改め）はい。手詰まりではない、別にね。
針谷　それよりさっきさー、売り言葉に買い言葉みたいな感じでいってたあれはなに、どれぐらい信憑性のある話なの？
猪俣　え、あれって――？
針谷　なんかホラ、僕が会社辞めるとか言い出すんだったら、むしろ辞めるのは俺だ、とか言ってたでしょう？
猪俣　まあ、うん。
針谷　君が辞めないんだったら僕が辞めるけど、――どうなの？

間。

猪俣　いや、そういう、俺はね、そういう、どっちが辞めるとか、そういうことをふたりとも言うべきじゃないと思ってて、
針谷　は？　え？　なに？　じゃあさっきのはウソ？　またウソ？
猪俣　いや、違うって。ウソとかじゃなくて、
針谷　★ウソじゃないの？　ごめんわかんない。だって君はさっき言ったこととまるで違うことを言っているよ？

猪俣　そう、そうなんだけどさ、
針谷　ひとつのことを言いました、それとまったく逆のことを言いました、現実的には後者が本当です、というのだったらさ、まあ、前半に言ったことはウソ、ということになるよね？言葉の定義上、ウソというのはそういう現象だと僕は理解しているんだけど、なに、違うの？
猪俣　そう、そうだよ。おまえの言う通りだよ。
針谷　だったら「ウソとかじゃなくて」じゃねえよ。ウソつきました、ということだろうがよ。
猪俣　うん、まあ、そうだ。そうだね。
金沢　やめよう・やめよう、［そういう言い方はやめよう。
江田　［うんうんうん。
針谷　じゃあ、ホラ、ちゃんといいな。ウソをつきました、って。ね。
猪俣　ごめんだから――。まあ結果としてウソをつくような形になってしまったことは、謝る。すまん。
針谷　――すっきりしねえ言い方。

間。

金沢　もう止めようよ、そういうのは、ちょっとハリーもおかしいって。
江田　うん、ちょっと違うってそれは。
針谷　君らは関係ねえから黙っててくれない？
江田　いや、関係あるからこうやって話をしてるわけでしょ、［ずっと。
金沢　［そうそう、そうだよ。
針谷　だから君らが間に入ったことによって揉めているわけでしょ、むしろ、このように？君らにも責任の一端があって、僕が黙っていて欲しいとお願いしているんだから、そのお願いを聞いてくれてもいいんじゃない？　もっとも、そういう思いやりがない、というのだったらそれは残念なことだけど僕は諦めるしかないけどね。

間。

江田　この世の終わりのような雰囲気だね、この食事も。
金沢　黙ってろよ。

間。

針谷　で、どうなのイノッチ？
猪俣　ん、何が？
針谷　僕が辞めるの？　君が辞めるの？
猪俣　俺はそういう、どっちが辞めてとか、そういう考え方は、

針谷　一緒に働くのは、無理。悪いけど。

一拍。

針谷　本当にこれは申し訳ないんだけど、――絶対に絶対に無理。

猪俣　★わかったよ。

一拍。

針谷　うん。なんか、努力してどうにかなるとも思えないし、そもそも努力したいと思っていないし、努力すべきだとも思っていない。無理だよ。諦めよう、これは。哀しいことだけどね。

間。

針谷　で、どうなの？

猪俣　いや――。んん。

針谷　じゃあ僕が辞めようかな。

一拍。

針谷　辞めたくないけどね。とても好きな仕事だし。

猪俣　いやいやいや、

針谷　なに？

猪俣　まあ、だから、うーん。

針谷　なに？

猪俣　いや、そういう、んー。どうしてもだから＝

針谷　＝うん。

猪俣　どっちが辞めるとかそういう話にはしたくないけど俺は、

針谷　★うん、だから／

猪俣　それ・それが難しいのもわかったから。

針谷　★うん。そうね。それは難しいんだよ。

猪俣　★だから、いちいち、入れてこないでよ。――言うから、ちゃんとしゃべるから。

針谷　（冷静に）それは失礼。

一拍。

猪俣　はあ。だから、んー。そりゃ。んー。なんだっけ。

針谷　僕が辞めようか？　って。
猪俣　いいよ。いいです。そんなことしないで。
針谷　うん。
猪俣　でも、「一緒に働くのは無理。絶対」。
針谷　うん。
猪俣　じゃあ、俺が辞めるしかないでしょ。

間。

針谷　いいの、それで？
猪俣　――良くはないけど、
針谷　なに、不満？
猪俣　いや、不満は無いよ。無い。
針谷　うん。じゃあ、なに？
猪俣　うーん。――残念。

間。

猪俣　俺はまあ、今更こんなことといってもなんか、すげえバカみたいな感じにしか聞こえないだろうけど、俺は、大学出たあともハリーと職場一緒になって良かったなって思ってたし。いや、これはホントに。ふたりとも内定もらえたときはまあ、普通に、うれしかったし。うん。

間。

猪俣　だから残念だよ。――いやでも、そういう言い方は良くないか。違うかこれは。――んー。俺が悪かったよね。すまんかった。うん。――と思う。申し訳ない。あーいや、これは「許してくれ」とかそういう意味じゃなくて純粋に。申し訳なかったな、と思う。ごめん。
針谷　――まあ、そんなこと言わずに一緒にまたがんばろうよ。

一同、驚いて針谷を覗き込む。

間。

針谷　もう、いいよ。別に謝ってもらったって何の得にもならないし。今さら事実が変わるわけでもないし。ホラ、「過去と他人は変えられない」っていうでしょ？　というか、まあ、もともと知ってたし、僕。
猪俣　え？

間。

金沢　なにを？
針谷　え、だから君らがキャンプにいったこととか。イノッチの彼女がミライちゃんだってこととか、全部。

間。

江田　という、ウソ？　ん？　え、え、なに？　どういうこと？
針谷　どういうことって、そういうことだよ。
江田　［え・え・え、なになになに？
金沢　［ちょっと待って・ちょっと待って、え・え、なんでじゃあ、さっきああいう、感じだったの？
猪俣　え、というかホントに知ってたの？
針谷　知ってたよ。ホントだよ。ごめん。ウソをついたさっきは。知らないフリをした。
猪俣　え、じゃあ、――どうやって知ったの？
針谷　聞いたんだよ。人に。
猪俣　誰に。
針谷　え、河井。（河井に）ね。
河井　あ、ええ、いや、

間。

河井　あーいや、違うんですよ、猪俣さんあの、
猪俣　河井かあ。
河井　いや、違うんですよ、なんか針谷さんが知らないってことを知らなくて俺、なんか、
猪俣　いやいやいや、まあ、いや、いいよそれは。なるほど。
針谷　そう。
金沢　あ、へー。ああ。
河井　（猪俣に）いや、なんか、話の流れでそうなっちゃったってだけなんですけど。ホントに俺、針谷さんが知らないっていうことを知らなくて、伏せてることがあるっていうのがわかってなくて、
猪俣　いやいやいや、いい、いい。そうだよね。そりゃそうだ。別に、ああ、なるほどって感じだから。いいよ、河井は。うん。
河井　ホントすみません。
猪俣　いい、いい、いい。いいから、ホント。ていうか、むしろごめんだよね、なんか巻き込んじゃって。
河井　いやいやいやいや！
針谷　（河井に）でもありがたかったよ。僕の人生にとっては。本当に。

河井　ああ、いや。
針谷　だって君に聞いてなかったら、本当のことをずっと知らないままで過ごしていた可能性もあるわけだから。うん。最後まで自分が裸だってことに気づかないんじゃあ、王様も哀れでしょう。

間。

針谷　そうなんですよ。あー、ちょっと聞いてくださいよ園田さん。
園田　え、え？
針谷　いや実はね、僕あの、今の部署で一人あのー、なんだ、メンバーの「整理」をしなくちゃいけなくなったんですよ。（猪俣に）っていうね。ことがあって。
金沢　ん・ん・ん？　整理？
針谷　うん。あー、ここからはますますふたりは関係ないから、ちょっと黙っててね、ホント。
江田　ええ？
針谷　（園田に）そうなんですよ。いやね、まあ、今あの、うちの会社でやっているプロジェクトがあるんですけどね、まあその、結構でかい案件が入ってきて、
園田　うんうん。
針谷　それでまあ、ちょっと新規のプロジェクトをやるってことになったんで、うちの部署からも何人か人を出すんですけど、というかまあ、なんていったらいいんだろうな――。今やってる仕事からもっと大きい仕事にうつる、と。
園田　うんうん。
針谷　それでまあ、いったん今のチーム、というか部署を解体して、別のあの、違う部署の人間とかと一緒になって別の新しいチームを作るんです。
園田　その、新事業のために？
針谷　そうですそうです＝
園田　うんうん。
針谷　＝でまあ、その時に人員を整理しなくちゃいけないということになりまして。――新規事業なんていっても、割りとまあ、悪あがきというか、そんな、会社的には単に拡大ってわけでもないんで。それで一応まあ、僕もチームの中ではリーダーといいますか、チーフということになってましたんで、僕がその、整理する人員を決めなくちゃいけなかったわけです。
園田　ほうほう？
針谷　そこにまあ、なんというか、はは、まあ、ねえ。ちょうどいいと言ったらいけないですけど、まあ、言ってみれば、ちょうどよくこういう事案があった、と。
園田　え・え・え？
針谷　ホラ、解雇するのも大変じゃないですか、今？　こっちの都合でポンポン首切れる時代じゃないですから、コンプライアンスがどうだこうだってうるさいですし、だからまあ、できることなら、こっちからクビを切るんじゃなくて誰かに自主的に辞めてもらいたかった。それ

もできれば早期退職がどうだこうだ言うんじゃなしに、そういうまあ、流れの中で誰かに消えてもらいたかったんです。そこで、――彼に消えてもらうことにしたんです。

一拍。

針谷　河井から話を聞いたとき、まあ、確かにちょっと怒っている時間もあったんですけど、でも、それはほんのちょっとのことで。

一拍。

針谷　彼も友達ですから。僕も彼を切るようなことはしたくなかった。それに、僕が自分の都合だけで彼を切れば、社内での僕への信頼にも傷がつきますから。

一拍。

針谷　理想の形としては、彼が勝手に辞めると言い出して、それを僕が全力で止める。で、それにも関わらず彼は勝手に自分の都合で、自分のわがままだけを通して辞めていく。それを僕が全力で止めたにも拘らず。

一拍。

針谷　そうすると、僕の信頼はむしろ高まる。いいやつだなっていって。辞めていくやつの面子も立つ。――まあ、しかし、どうも僕の性格上そこまでうまくはストーリーを組み立てられなかったみたいで。

間。

猪俣　じゃあ、え、逆に言えばさあ、

針谷　うん、なに？

猪俣　じゃあ、なに、逆に言えばこの件とか一切抜きで、それはそれで仕事の話として俺はなんだ、「整理」されるってこと？

針谷　――まあ、端折って言えばそういうことになるね。

猪俣　なにそれは、え？　言いにくかったからってこと？　直接その、何の理由もないと俺に言いにくかったからその、それでだから、え、そういうことを言い訳にして、それで言いにくいことを言った、というか俺に言わせた、っていうこと？

針谷　うん、まあ、大体あってるかな。

間。

猪俣　なんだよそれ。
針谷　うーん。――なんなんでしょう。
猪俣　汚すぎるんじゃねえのか、それは流石に。
針谷　うーん。確かにね。認めるよ。僕は、汚い。うん。――ただ、君がきれいだとも思わないけどね。

間。

猪俣　俺、帰るわ。
江田　え、え？
猪俣　気ィ悪いわ。こんなんあるかよ。
江田　いやいや、それはダメだろ。な？　イノッチ、［イノッチ！
河井　［猪俣さん！　――猪俣さん！

猪俣、退場。江田、河井もそれを追って退場。

◎晩餐　3

金沢　お前、何がしたいんだよ？

間。

金沢　言い過ぎだよ。どうしちゃったんだよ？
針谷　――
金沢　いや、知らねえけどさ、ホントはお前が何を考えているのかとかは、
針谷　僕もわからなかったよ。君らが何を考えて僕を呼ばなかったのか。
金沢　★だから、それはすまん、て。
針谷　謝ってもらってもどうしようもないでしょ、って。
金沢　★お前さあ、

一拍。

金沢　こんなの大したことじゃねえよ、全然。いや、お前にとっては大問題だったんだろうけどさ、くだらねえ話だよ。少なくともそんなさ、今までの関係なにもかもぶち壊しにするような、それほどのことか？
針谷　――まあ、そうだね。確かに。
金沢　許せよ。謝ってんだから。

針谷　それもウソだったら？

一拍。

金沢　はあ？＝

針谷　＝謝ってるのもウソで、あとになって君たちでまた集まって、いやー、バレちゃったな　あ、キレてたなあ、ぎゃははは、とか、［そういうことじゃないって保証は、

金沢　［おう、おう、おう、おう、――それはさ。キリがないじゃん。

針谷　無いよ。無い。だから苦しんでるんじゃないか。

金沢　だから許せよ。そんで諦めろよ。

間。

金沢　確かに、万引きするようなやつは泣いて謝ってもまた万引きをするのかもしれないよ。むしろ十円のもの万引きしたやつは今度は十万円のものを万引きするようになるのかもしれない。強盗になるのかもしれない。そういうヤバいやつなのかもしれないよ！　でも、――じゃあさ、死刑にでもすんのか？　ちょっとでも悪かったやつはみんなやっつけて、お前の目の前から消えるまで叩き続けるのかよ？

間。

金沢　よく考えろよ。

金沢、退場。

間。

◎晩餐　4

園田、居なくなった人のお膳を片付け始める。以下の台詞の最中も片付けている。

園田　なんだか、めちゃくちゃになっちゃってますねえ。

針谷　そうですか？　概ね予想通りでしたけど、

園田　いやいや、この今の状況がめちゃくちゃだと言ってるんじゃなくてね。

針谷　――はあ。

園田　あなたの気持ちが支離滅裂、というかね。ぐちゃぐちゃなまま話しているなあ、って。

一拍。

針谷　まあ、嫌なやつですからね、僕は。さっきは同情して損したでしょう？
園田　まさか。
針谷　だって、すげえ嫌なやつじゃないですか、僕？
園田　まあ、それは賛成です。――だけどまあ、とてつもなくちっぽけなやつですからね。ちっぽけすぎて、同情します。
針谷　フフフ。言いますねえ。――まあ、どうしようもない人間なんでね、すみません。

一拍。

園田　そうやって卑下して、自分を守るもんじゃない。
針谷　別にそんな、守ってないじゃないですか、だって、
園田　守って無いんですか？

間。

園田　あいつらが悪くて、加害者で、俺は被害者で、悪くない＝
針谷　そんな、
園田　＝そういうことでしょ、あなたが言ってるのは？
針谷　違いますよ、僕は、
園田　★どうしようもない人間なんだと言っとけばそれ以上自分を変えないで済む。
針谷　だって実際／んー。

間。

園田　いいんですか？　これで全部おしまいにして？

間。

針谷　いや、まあ、もしかすると僕もわざと彼を傷つけるような言い方を選んでしまったのかもしれない。でも、じゃあ、なんのためにそんなことをしているかっていったら――
園田　ええ、なんのために？

間。

針谷　わかりません。いや、誤魔化しているんじゃなくて、わからないんです。本当に。

間。

園田　人間関係なんていつもオンボロの小屋みたいなもんなんですから。――まあ、確かに、向こうさんもなんだかその小屋にヒビを入れるようなことをしたのかもしれないですがね、
針谷　そうですねえ。
園田　だからってそれをブルドーザーでぶっ壊していいってもんじゃない。

間。

園田　今は何を話したってダメかな、ふたりとも。

間。

園田　まあ、人のせいにしたいよな。そりゃ誰だって。――あいつが先に裏切ったんだー、あいつが先にウソをついたんだー、あいつがこんなことさえしなければー、って。誰かのせいにしたいよ。

一拍。

針谷　僕は別に、本当に怒っていたわけじゃないんです。単に人員の整理をするために、
園田　よく言うよ。
針谷　本当ですよ！

一拍。

園田　彼に裏切られたから嫌だったんだよな？　彼、あのー、イノッチ？
針谷　違います。
園田　★違うかな？

間。

園田　本気で騙すつもりだったら種明かしなんてしないもんだ。

間。

園田　怖くなったんだろう？　自分が。――だから誰かに、否定してほしかった。
針谷　ぜんぜん違いますよ。そんな、
園田　まあな、まあな。うん。――確かに。ぜんぜん違うのかもしれない。

一拍。

園田　それはハリーがゆっくり考えることだ。でもまあ――

一拍。

園田　人のせいにしてたらまた同じことするぞ、君は。「あいつはダメだった、次はこいつだ、こいつもダメだ、じゃあこいつだ」。その次だってその次だって、きっと同じことをするぞ。

針谷　そんな、そんな人ばっかりじゃないですよ、［世の中

園田　［違う。君の問題だ。

間。

園田　なんてな。ははは。

園田、立ち上がり、少し歩く、

園田　俺だって人のせいにしたいよ。せっかくこんな、いい心がけでさあ？　フフ。いい宿作ってたと思うんだけどなあ。――誰かが助けてくれたっていいじゃねえか、ってさ。

間。

園田　すごいな、雨。

雨音、強くなる。斉藤、登場。

斉藤　園田さん！　ちょっと来てください、雨がもう、ヤバいっす、あの、天井がもう、雨漏りってレベルじゃなくて、

園田　――だろうな。

斉藤　宇多川さんが作業してくれてるんですけど、なんかいろいろ吹き飛ばされちゃってるみたいで、

一拍。

園田　大丈夫かなあ、イノッチ。（針谷に）なあ？

針谷、無言。

園田　って、人の心配している場合じゃないか。
斉藤　そうっすよ！　もう、戻ります。いいましたからね、俺！

斉藤、退場。
間。
雨音、更に強くなる。

園田　業者入れとくんだったかな。ケチってねえで。
針谷　え？　――え？

間。

園田　あ、

暗転。

▼音響　曲in　崩れるのテーマ
▼音響　曲in　カーテンコール１
▼音響　曲in　カーテンコール２

幕

【参考文献】

平気でうそをつく人たち　M・スコット・ペック
愛すること、生きること　M・スコット・ペック
カイン　中島義道
人を愛することができない　中島義道
人を〈嫌う〉ということ　中島義道
道徳感情はなぜ人を誤らせるのか　管賀江留郎
なぜあの人はあやまちを認めないのか　キャロル・タヴリス＆エリオット・アロンソン
良心をもたない人たち　マーサ・スタウト
人間関係トラブったらこうしなさい―あのヒトと仲直りするための30の方法　中里至正
あの人と和解する　――仲直りの心理学　井上孝代

DV・虐待加害者の実態を知る　ランディ・バンクロフト
ドメスティック・バイオレンス　――愛が暴力に変わるとき　森田ゆり
加害者は変われるか？　――DVと虐待をみつめながら　信田さよ子
オレにあやまれ！　～史上最悪暴言DV夫との涙の7年間～　杉野BEAT
DVと虐待　――「家族の暴力」に援助者ができること　信田さよ子
人道的介入　最上俊樹
ストーカーは何を考えているか　小早川明子
ストーカー加害者　――私から、逃げてください　田淵俊彦
ストーカーの心理　荒木創造
ストーカーの心理学　福島章
ストーカーの心理　――治療と問題の解決に向けて　ミューレン／ボール・E
性犯罪者の頭の中　鈴木伸元
遺言――桶川ストーカー殺人事件の深層　清水潔
ストーカーの時代　ブラン・ニコル　内藤憲吾訳
ストーカー病　福井裕輝
私はこうしてストーカーに殺されずにすんだ　遥洋子

ゆがんだ正義感で他人を支配しようとする人　梅谷薫
あなたの感情を毒にしない生き方　梅谷薫
パーソナリティ障害　岡田尊司
パーソナリティ障害がわかる本　岡田尊司
人を動かす対話術　岡田尊司
愛着障害　岡田尊司
境界性パーソナリティ障害　岡田尊司
信頼額の教室　中谷内一也